

# CONTENTS

トップメッセージ	1
グループ事業概要	2

## ■ 特集1

従業員の健康をサポートし ワーク・ライフ・バランスの実現を目指して	4
--------------------------------------	---

## ■ 特集2

サイバー攻撃から預託個人情報を守る!	6
--------------------	---

トッパンフォームズのCSR	8
2015年度の実績と2016年度の施策	10

## マネジメント体制 12

行動指針	13
コーポレートガバナンス	14
コンプライアンス	16
リスクマネジメント	17
事業継続	18
情報セキュリティ	19

## ステークホルダーとのかかわり 20

地域社会とともに	21
お客様のために	24
株主・投資家とともに	26
取引先とともに	27
従業員とともに	28

## 地球環境とのかかわり 32

環境マネジメント	33
研究・開発	35
環境に配慮した製品・サービス	36
環境コミュニケーション	37
環境パフォーマンス	38

第三者意見	40
ISO26000対比表／編集後記	41

### 【表紙解説】

(タイトル)笑顔

笑顔。それは人々と社会を動かしてゆく原動力。

君の。私の。子どもたちの。人々の笑顔が咲き誇る豊かな社会。

笑顔が、明るい未来へとつながってゆく。

イラストレーター 小沢和夫

# ステークホルダーの皆様へ

## ■ 社会の一員として

このたびの平成28年熊本地震により、被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。私たちも社会の一員として、微力ながら被災地の復興をお手伝いしてまいりたいと考え、実践しております。取り組みの一例として、7月1日から10日まで、当社の汐留本社ビルにてチャリティー・イベント「きずな展\*」を開催いたしました。趣旨にご賛同いただいたクリエイターの皆様にも協力いただき、このイベントを通して被災地の復興に少しでもお役に立てればと考えております。

## ■ 50年への感謝、そして新しい50年に向けて

昨年の6月に当社は創立50周年を迎えることができました。これも幅広いステークホルダーの皆様からの温かいご支援の賜物であると深く感謝しております。

1965年の創立当時、当社はビジネスフォームの製造・販売を中心としたベンチャー企業でした。まだまだコンピューターの導入は一部の企業に限られ、ビジネスフォームという言葉自体が一般的ではありませんでした。その後、コンピューターが社会に浸透し幅広く利用されるようになり、当社もビジネスフォームを中心にお客様の大切な情報をお預かりしプリントするデータ・プリント・サービス(DPS)、データ周りのさまざまな業務を代行するビジネスプロセスアウトソーシング(BPO)へとサービスを拡大してまいりました。事務革新のパイオニアとして、常に新しい分野を切り拓くとともに、大切なお客様の情報を取り扱う会社として、個人情報保護・情報セキュリティを最重要課題の一つと捉え、トップレベルの情報セキュリティ体制の構築に努めてまいりました。

創立からの50年間、私たちは創業と同時に制定した経営信条「三益一如」の実践を常に意識し、自分たちの利益にとどめることなく、社会益・会社益・個人益の三益を併せて追求することで、多くのステークホルダーの方々から信頼と評価をいただき、2016年3月期には5年連続の増収増益につなげることができました。対外的にも、経済産業省と東京証券取引所が選定する「なでしこ銘柄」には3年連続、「攻めのIT経営銘柄」には2年連続で選ばれ、2016年には新たに「健康経営銘柄」にも選んで

いただくことができました。これらは、当社の取り組みそのものに加えて、積極的な情報開示などのフェアな姿勢を評価いただいたものと受け止めております。現在、企業に求められる取り組みは多岐にわたっています。環境マネジメント、コンプライアンス、コーポレートガバナンス、事業継続計画なども重要な企業の社会的責任事項であり、当社グループは今後も真摯に取り組んでまいります。具体的な取り組みについては本書で紹介させていただいておりますので、ご一読いただければ幸いです。

## ■ “グッドカンパニー”を目指して

私たちが目指す“グッドカンパニー”とは、言い換えれば「社会で存在感のある会社」「社会に信頼される会社」であり、ステークホルダーの皆様との共感構造を大切にできる会社です。

創立から続く「三益一如」の精神のもと、今後とも社業を通じて幅広く社会に貢献していくことができる存在感のある会社を目指してまいります。併せて、従業員の多様性を尊重し、一人ひとりの幸福を実現できる職場環境を整えることで、市場のパイオニアとして高い収益力を有する活力のある力強い会社を目標に邁進していく所存です。

ステークホルダーの皆様におかれましては、当社のCSR活動へのご理解を深めていただき、私たちとの真摯で率直な対話を末永く継続いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長

坂田 甲一

\*きずな展：イベントの趣旨にご賛同いただいたイラストレーターやデザイナー、作家といった多くのクリエイターによりご提供いただいた作品の展示ならびに販売を行い、売上金はすべて日本赤十字社を通じて震災復興支援の義援金として寄付いたします。2011年にも東日本大震災の復興支援として開催いたしました。

# グループ事業概要

## ■ 会社概要

社名 トッパン・フォームズ株式会社  
 TOPPAN FORMS CO.,LTD.  
 所在地 本社:東京都港区東新橋1-7-3  
 会社設立 1955年5月  
 資本金 117億5,000万円  
 売上高 2,732億円(2016年3月期連結)  
 従業員数 12,049名(2016年3月末現在連結)

## ■ 主要事務所および工場

本社、東京事業部、首都圏事業部、東日本事業部、中部事業部、関西事業部、西日本事業部、製造統括本部、東京ビジネスセンター、関西ビジネスセンター、中央研究所、TFCP滝山工場、TFCP福生工場、TFCP川本工場、TFCP城東センター、TFT浜松工場、TFT静岡工場、TFTメディア工場、TFT名古屋工場、TFK大阪桜井工場、STF広島工場、TFN九州工場

## ■ 事業領域

印刷事業	ビジネスフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般帳票類</li> <li>●ラベルフォーム</li> <li>●多機能フォーム</li> <li>●エコロジーフォーム</li> <li>●セキュリティフォーム</li> </ul>	
	データ・プリント・サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビジネスメール</li> <li>●ダイレクトメール</li> <li>●バリアブルプリント</li> <li>●プリントオンデマンド</li> </ul>	
	ビジネスプロセスアウトソーシング	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文書スキャニング</li> <li>●事務局運営</li> <li>●コールセンター業務</li> </ul>	
商品事業	オフィスサプライ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オフィス用紙</li> <li>●プリンターサプライ</li> <li>●文房具</li> <li>●オータスカリ</li> </ul>	
	事務機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フォーム処理機</li> <li>●システム機器</li> </ul>	
	開発商品	<ul style="list-style-type: none"> <li>●温度管理システム</li> <li>●フィルム加工品</li> </ul>	
ICT事業	カード	<ul style="list-style-type: none"> <li>●IDカード</li> <li>●電子マネーカード</li> </ul>	
	RFID	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ICタグ・ラベル</li> <li>●来場者管理システム</li> <li>●クラウドサービス</li> </ul>	
	デジタルソリューション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ウェブ制作</li> <li>●Eメールソリューション</li> <li>●クラウドサービス</li> </ul>	
	NFC (Near Field Communication)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●決済プラットフォーム</li> <li>●リーダー・ライターモジュール</li> </ul>	

海外事業

## ■ トッパンフォームズ企業グループ(国内)

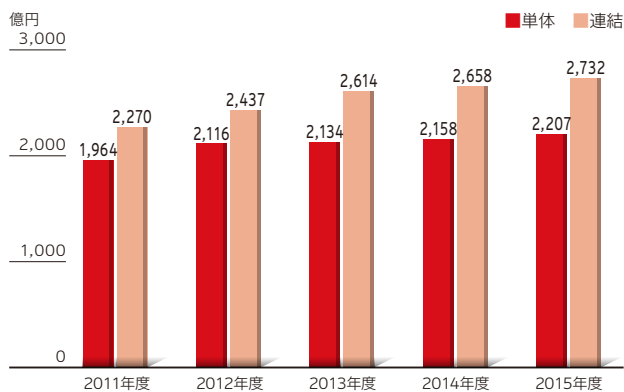
トッパン・フォームズ・セントラルプロダクツ株式会社(TFCP)  
 トッパン・フォームズ東海株式会社(TFT)  
 トッパン・フォームズ・オペレーション株式会社(TFO)  
 テクノ・トッパン・フォームズ株式会社(TTF)  
 トッパン・フォームズ・サービス株式会社(TFS)  
 トッパン・フォームズ関西株式会社(TFK)  
 トッパン・フォームズ西日本株式会社(TFN)  
 山陽トッパン・フォームズ株式会社(STF)  
 北海道トッパン・フォームズ株式会社(HOTF)  
 株式会社トスコ  
 TFペイメントサービス株式会社(TFPS)  
 沖縄ビジネスフォーム株式会社(OBF)  
 株式会社ジェイ エスクープ  
 凸版印刷株式会社

## ■ トッパンフォームズ企業グループ(海外)

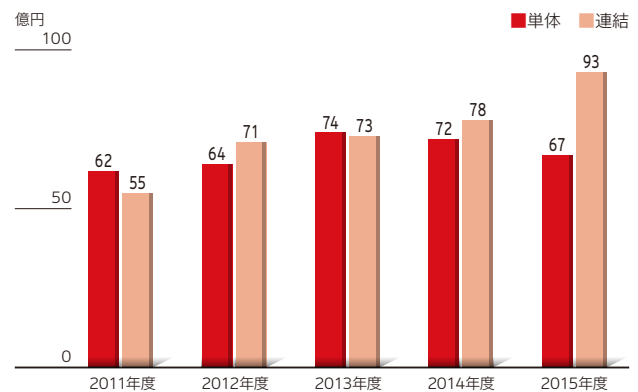
T.F.カンパニー社〔香港〕  
 トッパン・フォームズ(シンガポール)社  
 トッパン・フォームズ・カード・テクノロジーズ社〔香港〕  
 トッパン・フォームズ(香港)社  
 トッパン・フォームズ・コンピュータ・システムズ社〔香港〕  
 マンソン・コンピュータ・フォーム社〔マカオ〕  
 トッパン・フォームズ・インフォメーション・システムズ(上海)社  
 深圳瑞興印刷社  
 データ・プロダクツ・トッパン・フォームズ社〔タイ〕  
 トッパン・フォームズ(コロombo)社  
 CFMトッパン・フォームズ(マレーシア)社  
 浙江茉織華印刷社

## ■ 財務情報

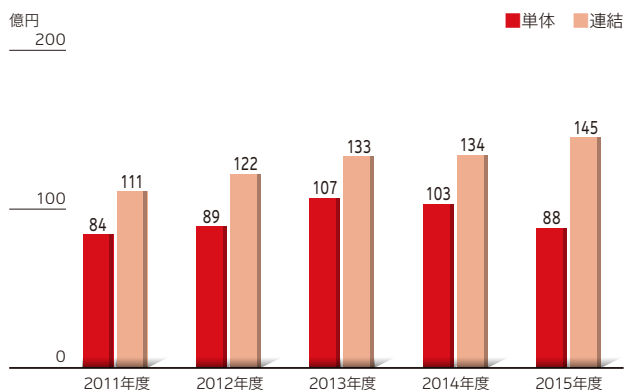
### 売上高



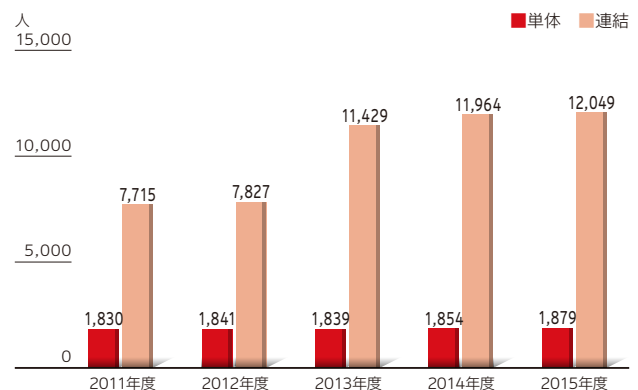
### 当期純利益



### 経常利益



### 従業員数



## 特集1 健康経営

# 従業員の健康をサポートし ワーク・ライフ・バランスの実現を目指して

### 「健康経営」とは

従業員などの健康管理を経営的な視点で考えて、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員などへの健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上などの組織の活性化をもたらす、結果的に業績向上や株価向上につながると期待されます。

(経済産業省HPより)

## トッパンフォームズグループの「健康経営」

当社グループでは、創業当時から始業前のラジオ体操や全社で行うスポーツ大会、部活動、また従業員家族や企業とのスポーツを通じた交流などが盛んです。数々の大会で優勝・入賞を果たした伝統的な部から、新入社員が率先して立ち上げた新しい部まで、スポーツを通じた従業員・家族のコミュニケーションも活発です。

また、全社の方針として「健康経営に関する方針」を打ち出しており、従業員が健康であることは生産性を高め、さらには企業の価値を高めるとの考えから、多様な人材が生き生きと働き続けることができる基盤づくりとして、健康保持・増進活動を推進し会社の発展向上を目指しています。



## 具体的な取り組み

毎朝のラジオ体操は、音楽に合わせて自然と身体を動かすことができ、無理なく続けることができます。何気なく参加している社員も多いと思いますが、これも社員の健康を考えて取り入れている会社の取り組みの一つです。

また、毎年ウォーキングイベントや、社内での健康イベントやセミナーも随時開催しています。

### 2015年度の活動

「嘔む力チェック・歯科相談会」「心と身体の健康づくりセミナー」「体力測定会」「女性のための乳がん予防」「内臓脂肪撃退法」をテーマとした講習会など



体力測定会



嘔むチェック



女性のための乳がん予防

## 健康経営に関する方針

私たちは多様な人材が生き生きと働き続けることが出来る基盤づくりとして、健康保持・増進活動を推進し会社の発展向上を目指します。

### 施策

1. 生活習慣病対策
2. メンタルヘルス対策
3. 禁煙対策
4. 家族の健康推進



## 「健康経営銘柄」「東京都スポーツ推進企業」に選出

当社グループのこうした取り組みが評価され、2016年1月に経済産業省と東京証券取引所から「健康経営銘柄2016」に選定されました。

また、東京都からは、継続的に行っている日常的な健康への取り組み、スポーツに親しむ環境の醸成といった活動が評価され、平成27年度「東京都スポーツ推進企業」に認定されました。



## 「BIKE TOKYO 2015」に協賛

スポーツイベントへの協賛も当社の健康経営に関する取り組みの一つであり、2015年9月には、日本サイクリング協会主催のサイクリングイベント「BIKE TOKYO 2015」に協賛しました。

オフィシャルスポンサーとして大会期間中の「サイクリングカード」発行業務など、本業を通じた運営支援を行うとともに、都内主要スポットを自転車で巡るイベントに当社グループ社員が参加し、健康とスポーツを通じた社員同士のコミュニケーションを築き、仕事に対するモチベーション向上にもつながりました。

### VOICE



**私**は、サイクリングを長年の趣味としていますが、当社が「BIKE TOKYO」に協賛することを知り、喜び勇んで参加させていただきました。当日は、天候にも恵まれ、お台場から浅草、新宿、皇居外周、銀座、築地などをまわり、楽しく充実した1日となりました。会社の仲間とのサイクリングは、見えない一体感を生み出しましたし、お揃いの社名入りアームカバーをつけることが、われわれにとって誇らしいことに感じました。機会があれば、また参加したいと思います。

トッパン・フォームズ株式会社 企画本部・マーケティング部  
指澤 竜也



## 経営層からのメッセージ

トッパンフォームズグループは、働きがいのある職場環境づくりを目指しています。従業員の健康は重要な経営資源の一つであると捉え、健康経営に関する方針を掲げ、健康診断やスポーツイベントを通して、従業員の健康増進を図っております。また、家族の健康は従業員の力の源泉であると考え、家族の健康増進にも取り組んでおります。

今回いただいた評価を誇りに思うとともに、これをゴールとすることなく、今後も健康経営を実践し、より充実したワーク・ライフ・バランスを目指してまいります。

執行役員 総務本部長  
木村 末廣



# サイバー攻撃から預託個人情報を守る!

トッパンフォームズは、ビジネスフォームへの印字や加工処理を受託するデータ・プリント・サービス(DPS)のパイオニアとして、独自の情報セキュリティガイドラインを定め、グループ会社を含めたすべての事業所における従業員が守るべきルールと実施する安全施策を具体的に明文化することにより、全社同一のセキュリティレベルを実現しています。お預かりした個人情報を保護する磐石な体制整備は、お客様からの信頼を生み出す源泉となり、当社グループの大きな強みの一つとなっています。2015年度からはこのような情報セキュリティに対する取り組みを、業界のリーディングカンパニーとしてさらに前進させる施策に着手しています。

## 組織内CSIRT\*1の新設

CSIRT : Computer Security Incident Response Team

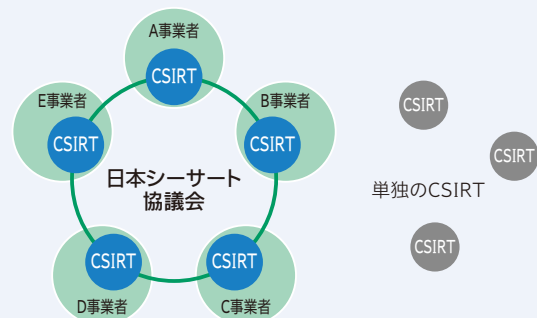
近年、コンピューターシステムやネットワークに不正アクセスし、保管されている情報を盗んだり、改ざんするサイバー攻撃が増加しています。当社もお客様からお預かりした大切な個人情報を守るためには、サイバー攻撃の危険性を認識し、その対策の整備および拡充を推進することが重要だと捉えています。

また、組織内CSIRTについては、組織の緊急対応チームの普及、連携体制の強化(2012年 経済産業省)や、CSIRT設置の促進(サイバーセキュリティ2015 経済産業省)など、行政も積極的に推進しています。

こうした状況の中、当社グループの組織内CSIRTとして、サイバー攻撃などのコンピューター関連の緊急事態に対応する専門チーム「TOPPAN FORMS CERT\*2」(Computer Emergency Response Team)を新設し、2015年10月には、

日本シーサート協議会(日本コンピュータセキュリティインシデント対応チーム協議会)に加盟いたしました。

同協議会は、日本国内のCSIRT同士が互いに協調し、共通の問題を解決する場として、設立した組織で、2016年4月1日現在137チームが加盟しています。



## TOPPAN FORMS CERTのミッション

セキュリティインシデント発生を前提とした主体的かつ迅速な対応を実践し、インシデントの“発生リスクの低減”と発生時の“早期収束”を実現する。

## TOPPAN FORMS CERTが守る情報

情報資産：電子化された秘密情報(預託個人情報、社内データ全般)

システム資産：システム資産全般

## TOPPAN FORMS SOC : Security Operation Centerの新設

各種通信機器、セキュリティ機器上のログなどを監視し、不正または不審な挙動を早期に検知する。

SOCによる専門的な監視体制によって、インシデント対応にかかる時間短縮と早期発見を図る。

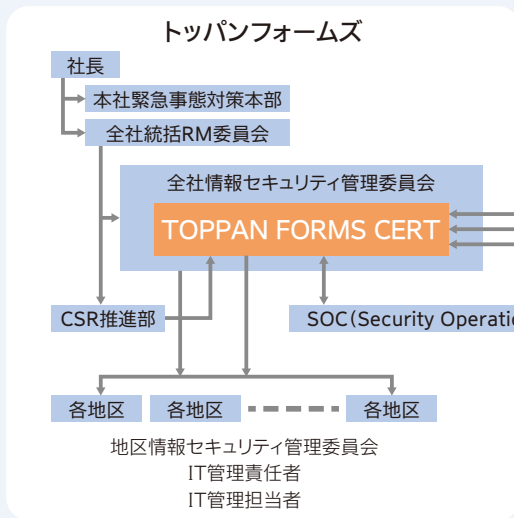
\*1：CSIRT：コンピューターセキュリティにかかるインシデントに対処するための組織の総称。インシデント関連情報、脆弱性情報、攻撃予兆情報を常に収集、分析し、対応方針や手順の策定などを行う。

\*2：CERT：「コンピューター緊急対応チーム」の略称。セキュリティ、インターネット上の不正アクセス、ソフトウェアの脆弱性などの情報収集や情報提供を行う。





## インシデントレスポンス体制



TOPPAN FORMS CERT/SOCのメンバー

## TOPPAN FORMS CERTの活動



### ●セキュリティ品質向上

- 標的型攻撃対応トレーニング
- インシデントハンドリングの最適化
- 従業員のセキュリティ知識向上
- セキュリティ人材の育成
- 社内規程の整備

### ●インシデント事前対応

- 出口対策
- ネットワークの分離
- インフラ整備 など

### ●インシデント事後対応

- インシデントハンドリング (インシデント分析、対応)
- 脆弱性ハンドリング (脆弱性情報の収集、対応)
- アーティファクトハンドリング (サイバー攻撃の解析、除去、防御)

## 経営層からのメッセージ

私どもトップフォームズグループでは、情報セキュリティを経営の最重要課題の一つとして捉え、お客様からお預かりした個人情報を磐石の体制で保護管理・処理しております。とりわけ、近年のサイバー攻撃の増大に迅速かつ適切に対応すべく、昨年TOPPAN FORMS CERTおよびTOPPAN FORMS SOCを発足させました。

本年度は、この体制をさらに充実させ、お客様により一層安心していただけるよう努めてまいります。



全社情報セキュリティ管理委員会委員長  
常務取締役 最高情報責任者、コーポレートスタッフ部門担当及び内部監査室、秘書室担当兼経営企画本部長  
浜田 光之

# トッパンフォームズのCSR

当社は、経営信条である「三益一如」を基本理念としCSR活動を推進しています。

## ■ CSRの基本的な考え方

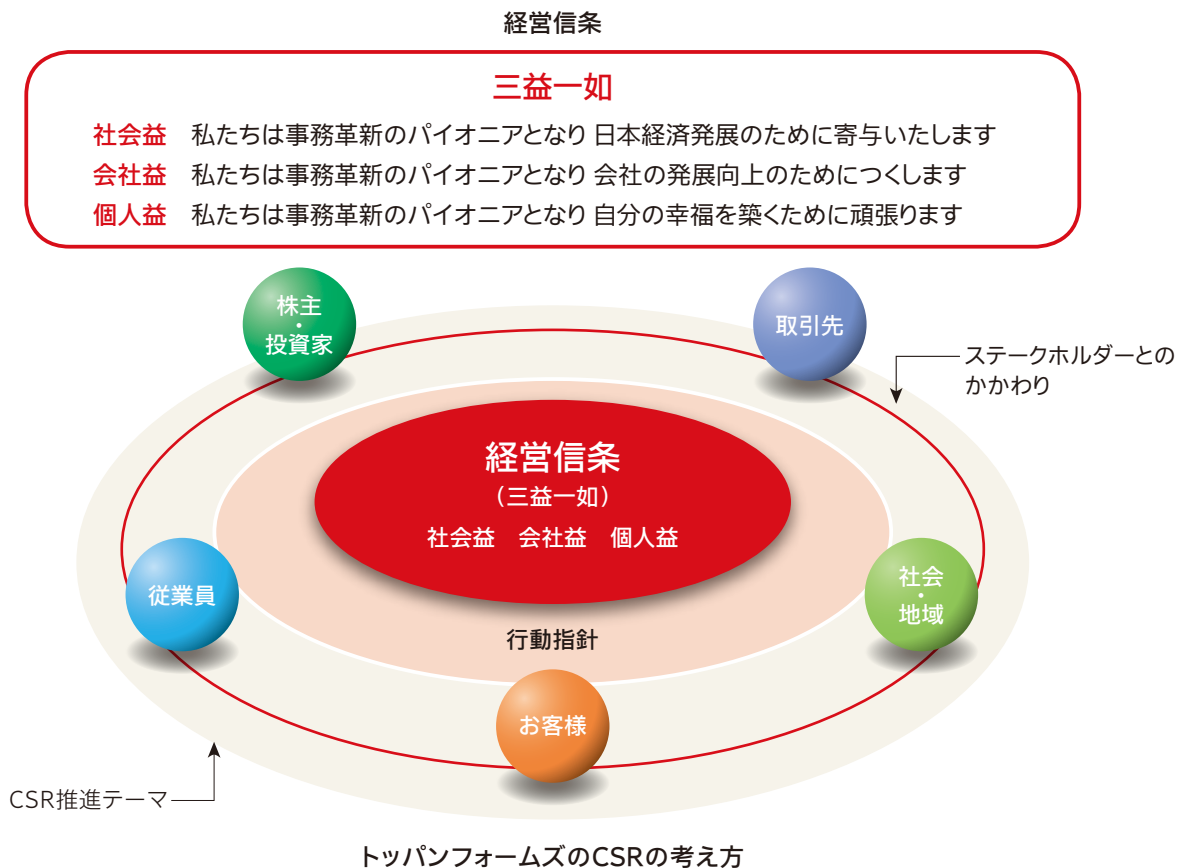
幅広いステークホルダーの皆様からの温かいご支援のおかげで、昨年6月に当社は創立50周年を迎えることができました。2016年は次の50年に向けての新しい一歩を踏み出します。初心に立ち返り事務革新のパイオニアとして、ステークホルダーの皆様から信頼される企業となれるよう、グループ全員が経営信条である「三益一如」を通し、さらなる高付加価値企業を目指し、社会的責任を果たしていきます。

企業のCSR活動は、CSR元年といわれた2003年から盛んになり、多くの企業が取り組んできました。当社も各事業所が個別に実施していた活動を水平展開するとともに、2010年からCSR報告書としてステークホルダーの皆様へ活動内容の開示を行ってきました。近年、CSR活動に対する企業の取り組みは「自社の事業を通して社会の課題を解決する」、いわゆるCSV(Creating Shared

Value)の考え方が強くなってきています。当社のCSR活動は経営信条である「三益一如」を基本としています。この「三益一如」は社会益・会社益・個人益の「三益」から成り、この三つの「益」に優劣をつけることなく「一つの如く」扱い、どれか一つでも欠けてはならないという理念であり、CSVにつながるものです。私たちは経営信条「三益一如」を実践することがCSR(CSV)の原点と考え、今後も取り組んでいきます。

## 経営信条と行動指針

経営信条「三益一如」を実践するために、従業員が取るべき行動を示したものが「トッパンフォームズグループ行動指針」で、10項目の基本原則と55項目の具体的指針で構成されています。2013年3月には具体的な120の事例をまとめた「行動指針ケースブック」を作成し、全従業員への浸透を図っています。



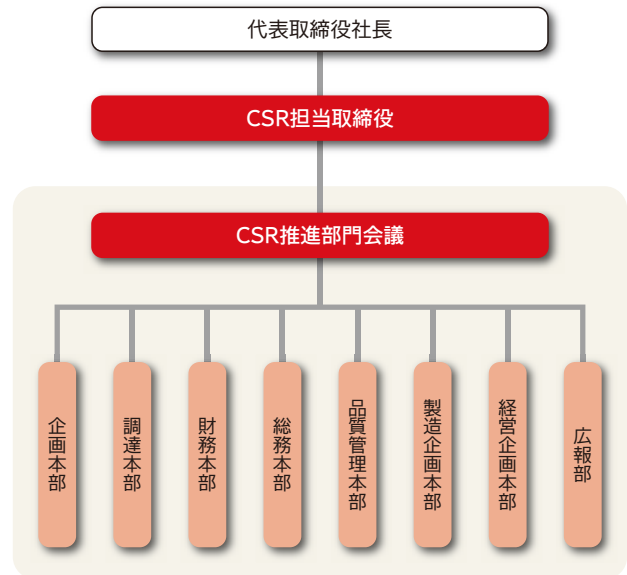
## CSR推進テーマの設定・運用

当社は、かかわりの深い5つのステークホルダーである「お客様」「取引先」「社会・地域」「株主・投資家」「従業員」に対し各部門がCSR推進テーマを設定し、年間を通じてCSR活動を推進しています。2015年度も年初に設定した推進テーマに沿って活動し、その達成状況および結果を踏まえた2016年度の設定テーマをP10-11に記載しました。

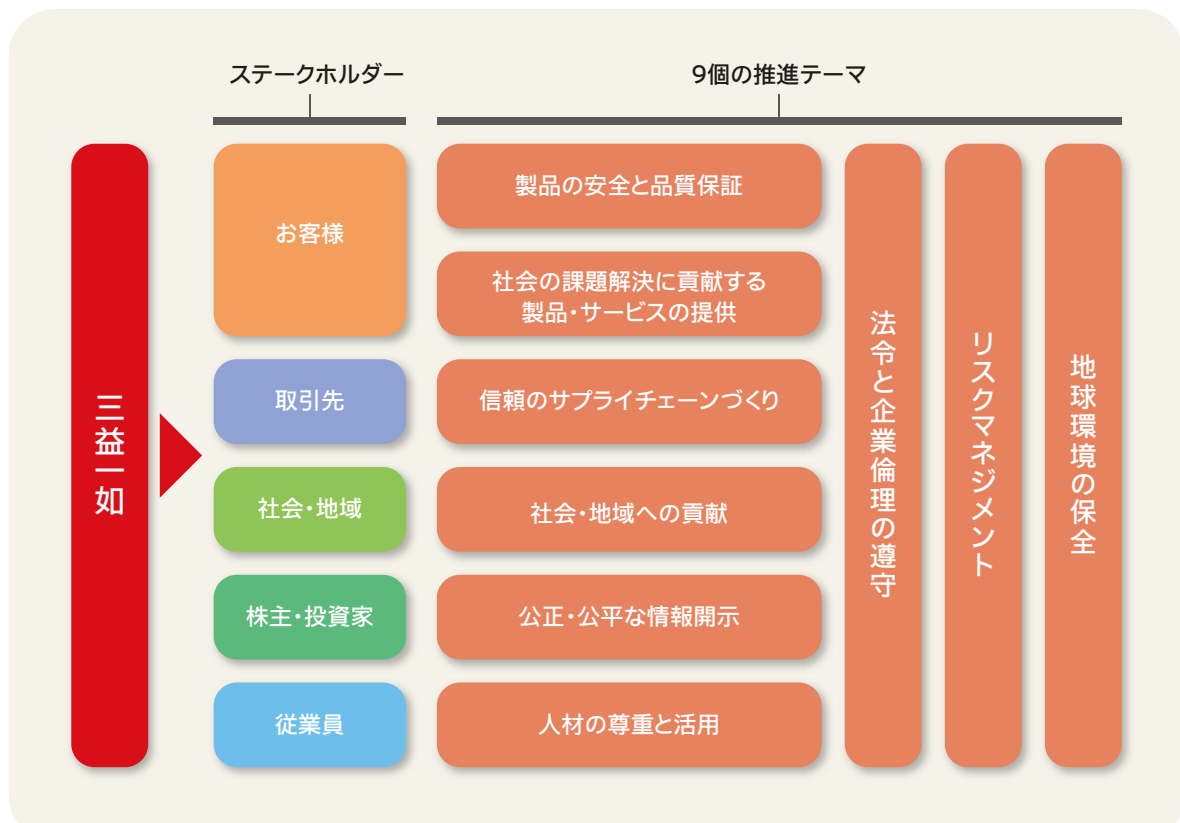
## CSR活動の推進

本社の管理部門により構成されるCSR推進部門会議を適宜開催し、相互に連携をとってCSR活動を推進しています。CSR推進部門会議は、CSR担当役員によって統括され、代表取締役の意向を直接受ける形となっています。

CSRの推進体制



CSR推進テーマ



# 2015年度の実績と2016年度の施策

ステークホルダー	推進テーマ	取り組むべき項目	主な目標または施策
すべて (マネジメント体制)	法令と企業倫理の遵守	コンプライアンス推進活動による法令や行動指針への意識向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 集合教育の実施と各種情報提供による理解度向上</li> <li>● 連絡会・集合研修による意識と知識の向上</li> <li>● 部門別・階層別教育、研修の実施による意識と理解度の向上</li> <li>● グループ会社のコンプライアンス活動状況の把握と情報連携</li> </ul>
	リスクマネジメント	情報セキュリティと事業継続を中心としたリスク管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 秘密情報管理台帳(仮称)の作成と従業員の意識向上</li> <li>● 内部監査の実効性向上に向けた監査員向け研修の実施とレベルアップ</li> <li>● トップانフォーメズのプライバシーマーク更新対応およびグループ7社の更新支援</li> <li>● 事業継続マネジメントシステム(BCM)の適用範囲拡大と訓練の多角化</li> </ul>
お客様	製品の安全と品質保証	予防処置活動と品質設計の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一通一枚単位の品質保証(封書製品のログ監視100%実施)</li> <li>● DPS*2自動処理ツール導入により運用リスク低減・年間100業務適用目標</li> <li>● ヒューマンエラー教育</li> </ul>
		品質保証・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造工場でのISO監査結果を本部にフィードバックし指摘事項への改善指導</li> <li>● DR(設計開発)の事前検討会の実施と設計開発段階からの参画</li> <li>● 全国の製造拠点を巡回し傾聴と指導を実施し、4M変更管理の推進と定着を図る</li> <li>● DPS工程総点検実施による脆弱部分の解消</li> </ul>
	社会の課題解決に貢献する製品・サービスの提供	社会の課題解決に貢献する製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ダンボール使用低減にフォーカスし、再利用可能な「リターナブルパッケージ」を拡販 運送会社・アパレルメーカーなど</li> <li>● 運送会社を含む流通・海外案件を中心に、温度管理対応商品を拡販 運送会社・コンビニエンスストアを中心に拡販</li> <li>● カーボンオフセット付商品(コピー用紙・トナーカートリッジ)を拡販 展示会出品による拡販</li> <li>● 防災などのBCP対策用品を販売、展示会出品、チラシなどによる拡販</li> </ul>
取引先	信頼のサプライチェーンづくり	調達用紙メーカーの原料合法性の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達用紙メーカーの原料合法性の確認 100%</li> </ul>
社会・地域	社会・地域への貢献	社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本赤十字社の献血運動への協力推進</li> <li>● 自然保護活動への参加</li> </ul>
		地域貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域清掃活動への参加</li> <li>● 地域とのコミュニケーション活動の推進</li> </ul>
株主・投資家	公正・公平な情報開示	IR活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主・投資家向けイベントの充実による当社事業に対する理解の深化</li> <li>● 能動的なIR活動へのシフト</li> <li>● よりわかりやすく、より伝わる情報開示の実践</li> </ul>
従業員	人材の尊重と活用	安全な職場環境の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ全体の休業災害件数 0件</li> <li>● 医師による生活習慣病指導、健康イベント実施、禁煙活動の推進</li> <li>● メンタルヘルス対策(新人全員面談、メンタルヘルス教育)</li> <li>● 自衛消防隊への教育実施、防火・救命講習実施</li> <li>● 地域交通安全活動、安全運転講習実施</li> <li>● インフルエンザ対策(予防接種：社内にて実施)</li> </ul>
		多様な人材の育成・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 過年度採用、通年採用、非正規雇用からの正社員登用 新卒女性採用比率50%(大卒女性採用比率50%)</li> <li>● 女性管理職育成研修および上司向けの研修の実施</li> <li>● 障がい者雇用率2.0%以上の達成</li> <li>● グローバルで活躍できる人材の育成に向けた、語学教育と異文化教育の充実</li> <li>● 階層別指名研修、職種別研修、選択(ビジネススキル・ヒューマンスキル)研修の実施</li> <li>● 情報セキュリティ教育の実施</li> </ul>
すべて(環境)	P.34参照		



\*1 BPO：ビジネスプロセスアウトソーシング、\*2 DPS：データ・プリント・サービス、\*3 4M：Man(人) Machine(機械) Material(材料) Method(方法)、\*4 三温度帯配送：冷蔵品と冷凍品を一つの保冷箱で常温で配送すること、\*5 Personal information protection Management System

2015年度の主な活動内容と成果	年間評価	2016年度の主な施策
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 行動指針ケースブックの活用、事例中心に階層別の集合研修、部門別の講習会実施</li> <li>● リーダー向け集合研修の実施と、リーダー主催研修の共催による連携強化</li> <li>● 談合防止のための集合教育を営業部門に、下請法遵守教育を製造部門に実施</li> <li>● グループ会社コンプライアンス担当と連携し講習会の実施と資料の提供</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 行動指針の周知徹底によるコンプライアンス意識向上と実践の促進</li> <li>● 推進責任者・推進リーダーのサポート強化とフォローアップ</li> <li>● 独禁法・下請法をはじめとする業務関連法規の遵守徹底</li> <li>● グループ会社の連携強化による充実したコンプライアンス活動の実践</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本社部門に展開し各部署で秘密情報管理台帳を作成、全社には展開できず</li> <li>● 監査責任者研修、監査員養成講座、監査員フォローアップ研修を計画に従い実施</li> <li>● 対象全社で更新終了、審査内容の水平展開により全社のレベルアップを図った</li> <li>● BCMの対象にBPO*1(日野センター)を追加、教育・体制を構築し認証を取得</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サイバーセキュリティ対策の強化</li> <li>● セキュリティインシデント対応体制の強化</li> <li>● 海外グループ会社における情報セキュリティ体制の構築</li> <li>● 従業員のセキュリティ意識向上に向けた取り組み</li> <li>● 情報セキュリティの内部監査員の養成とレベルアップ</li> <li>● 首都圏における事業継続力強化に向けた訓練の実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 機械封入検査ログ取得100%</li> <li>● 新規案件増加などにより目標未達(47件適用)</li> <li>● 全国の拠点で合計22回セミナー開催</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マネジメントシステム(ISO9001)の活用</li> <li>● DR(設計開発)の強化および4M*3変更管理実施による事故防止</li> <li>● 商品事業部取扱品のリリース判定システムの運用</li> <li>● 安定品質のための仕様凍結およびプログラム凍結意義の啓発</li> <li>● 複合案件(Web、DPS、BPO)の品質保証力強化</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間監査107回予定に対して107回実施</li> <li>● 新航空タグ(自動手荷物預け機用タグ)など開発テスト段階からの参画</li> <li>● 全製造拠点に対して4M変更管理教育指導を行い、78件の本社登録を実施</li> <li>● 出荷品質保証方法として個口出荷システムを開発</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一通一枚単位の品質保証(個別保証システムの拡大)</li> <li>● 標準化・機械化の推進</li> <li>● 統計的品質管理・行為保証の教育</li> <li>● DPS開発ルールブック作成・浸透教育実施</li> <li>● ヒューマンエラー防止教育の実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アパレルメーカーは新規参入が困難で苦戦</li> <li>● 6次産業対応の実証実験で当社保冷資材で効果を実証</li> <li>● 展示会出品やカタログ掲載による拡販を実施</li> <li>● BCP対策として防災備蓄用品を拡販、展示会にも防災用品を展示</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高機能保冷剤によるドライアイス代替市場の創出</li> <li>● 保冷剤を使用した医薬品の定温輸送実現による安定品質の提供</li> <li>● 保冷剤を使用した三温度帯配送**をサポートし環境負荷を軽減</li> <li>● 企業の災害対策に防災備蓄品を販売</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 合法証明書回収完了メーカー：24社/24社中 達成率：100%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達用紙メーカーの原料合法性確認品の継続購入</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 汐留本社ビルのほか、全国5事業所で実施、延べ367名が参加</li> <li>● 東京グリーンシッピングアクション、森林の整備支援などに90名が参加</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 汐留本社および他事業所における献血活動への協力：目標延べ400名</li> <li>● 東京都グリーンシッピングアクションなどの環境保全活動への参加：目標延べ100名</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の清掃活動に延べ164名が参加、また従業員による事業所周辺の定期的な清掃活動を実施</li> <li>● 工場見学、職場体験、インターンシップなどを10事業所で延べ23回実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の清掃活動などへの参加：目標延べ200名、事業所周辺の清掃活動の継続</li> <li>● 工場見学、就業体験、各種イベントの開催(参加)：目標20件</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内の施設見学(3回)に加え、海外拠点の見学会を実施 事業別セミナー開催へ向けた準備を進行</li> <li>● カンファレンスの情報収集を進めるとともに、証券会社への積極的な働きかけにより新規投資家との面談を実施</li> <li>● 機関投資家をはじめとしたステークホルダーへの情報発信ツールとして統合報告書を発刊</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 統合報告書の内容を拡充</li> <li>● 事業別説明会開催や施設見学会などの機関投資家向けのイベントを拡充</li> <li>● 個人投資家向けの取り組みを拡充</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ全体の休業災害件数 8件</li> <li>● 歯科イベント(咀嚼力チェック)、血管年齢測定会、体力測定会 グループ各社にて肺年齢チェック、健康セミナー(乳がん予防、メタボ対策) 「健康経営銘柄2016」に選定される</li> <li>● メンタルヘルス研修実施(ラインケア、セルフケア：新人、全社員)</li> <li>● 救命講習2回、応急救護訓練、本社自衛消防隊員に消防設備説明会実施 救命講習実績が評価され消防署より表彰を受ける</li> <li>● 営業職新入社員向け24名に安全運転講習実施 営業職30名に安全運転講習実施(危険予知訓練、車庫入れ実地訓練)</li> <li>● インフルエンザ予防接種実施 本社地区798名</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全衛生防火体制の強化 労働災害防止活動の実施、防火防災活動の実施 救命講習訓練の実施、安全運転講習の実施</li> <li>● 健康経営の推進 健康診断受診率の向上、ストレスチェック実施 メンタルヘルス教育の実施、スポーツイベントの実施 健康イベントの実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● キャリアリターン採用含む中途採用20名 新卒女性採用比率47.3%(大卒女性採用比率40.1%)</li> <li>● 「基本研修：主任1年目対象」「候補者研修：主任2年目以降対象」「上司向け研修：基本研修受講者の上司対象」「フォローアップ研修：管理職層」をグループ会社含め実施</li> <li>● 雇用率各月で2.0%以上を達成(年平均2.3%)(単体)</li> <li>● 語学教育 英語・中国語対面レッスン、オンライン英会話、e-ラーニング実施 グローバル研修、グローバル人材交流研修 e-ラーニング活用プログラム新設で裾野が拡大</li> <li>● 管理職層、新任部長、新任管理職、ミドルマネージャー、営業力強化、商談スキル向上、顧客価値創出実践力、営業プロジェクトマネジメント力強化、中高年層コミュニケーションスキルアップなどの研修を実施</li> <li>● PMS**研修 本社部門対象353名受講 その他全部門で実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 過年度採用、通年採用、非正規雇用からの正社員登用 新卒女性採用比率50%(大卒女性採用比率50%)</li> <li>● 障がい者雇用率2.0%以上の達成</li> <li>● グローバルビジネスリーダー育成 グローバルマネジメントスキル習得 12名</li> <li>● キャリアデザイン研修充実化 35歳、45歳、2回実施 対象237名</li> <li>● 自己啓発プログラム充実化 オンラインビジネススクール導入 リベラルアーツプログラム、ビジネス基盤力プログラム増加</li> </ul>

評価基準：S・・・目標を大幅に上回る成果があった A・・・目標を概ね達成できた B・・・積極的に取り組んだが目標達成には至らなかった C・・・取り組みが不十分だった

# マネジメント体制



## トッパンフォームズの取り組み

トッパンフォームズでは「三益一如」のもと、企業の社会的責任CSRを果たすための具体的な行動規範として「トッパンフォームズ行動指針」を定めています。

そして、ステークホルダーとの間により強い信頼関係を築くために、コーポレート・ガバナンス基本方針を定め、その実践と継続的な見直しを実施するとともに、個人情報取扱事業者としてセキュリティポリシーに基づいた情報管理体制の強化、事業継続マネジメントシステム(BCMS)の適用範囲拡大、リスクマネジメントに対する全社的な取り組み、コンプライアンス遵守などの企業価値を高める活動に日々努めています。

## 行動指針

### 基本原則(10項目)および具体的指針(55項目)

#### 1. 基本的人権を尊重する

1. 個人の多様な価値観を認め、人格と個性を尊重する
2. いかなる差別行為も行わない
3. セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントをしない

#### 2. 高い倫理観を持ち、良識ある社会人として行動する

##### 〈業務遂行において〉

1. トップフォームズグループの一員として、誇りをもって行動をする
2. 違法な行為やルール違反を黙認しない
3. 海外の文化や習慣を尊重する

##### 〈私生活において〉

4. 他人の迷惑となる行為をしない
5. 飲酒運転をしない
6. 違法な薬物を所持・使用しない
7. 賭博行為をしない

#### 3. 法令および社内規程を遵守し、公正に業務を遂行する

##### 〈法令遵守〉

1. 談合やカルテルをしない
2. 協力会社に対する不正行為をしない
3. 競争会社に対する不正行為をしない
4. 架空取引をしない
5. ビジネスパートナーの立場を尊重し、取引先と適正な関係を構築する
6. 贈賄や不適切な接待をしない
7. 違法な政治献金や寄付をしない
8. インサイダー取引をしない
9. 不正な輸出入取引をしない
10. 児童労働や強制労働をしない
11. 海外事業において国際ルールや現地の法令に違反しない

##### 〈社内規程遵守〉

12. 職場の規律や秩序を守る
13. 会社の許可なく他で就労しない
14. 会社との利害が相反する行為をしない
15. 私的な便益やリベートの受領や提供をしない
16. お客様からお預かりした資産を適切に管理する
17. 会社の資産を適切に管理・使用する
18. 適正な手続きを経た問題提起者に不利益を与えない
19. 自らの職務を誠実に全うする
20. 迅速で適切な報告を行う

#### 4. 反社会的勢力との一切の関係を遮断する

1. 反社会的勢力とは、一切の取引を行わない
2. 反社会的行為に加担しない
3. 違法な利益供与をしない

#### 5. 品質の向上に努め、お客さまの満足に資する作品を提供する

1. お客さまのために最善を尽くし、信頼関係を築く
2. 全ての工程において、品質向上に努める
3. 製品やサービスの安全・安心を十分に確保する
4. 他人の知的財産権を侵害しない

#### 6. 事業に関わる情報の重要性を認識し、適切に管理する

1. お客さまに関わる情報を守る
2. 会社の秘密情報を守る
3. 個人情報適切に取り扱う
4. 情報や記録の適切な管理に努める

#### 7. 地球環境の保全に積極的に取り組む

1. 事業活動における環境負荷の低減に努める
2. 環境に配慮した事業を推進する

#### 8. 変化を捉え、新たな可能性に挑戦する

1. お客さまに変化を捉えた提案を行う
2. お客さまのニーズに応える技術開発を促進する
3. 問題意識を持って、現状の改善に努める
4. 自らの知識、技能、技術の向上に努める
5. 知的財産を確保し、活用する

#### 9. 社会貢献活動や適切な情報開示を通じて、社会からの信頼を醸成する

1. 会社の社会貢献活動や地域貢献活動に積極的に参加する
2. 技能や文化の発展、伝承に貢献する
3. 適切な情報開示を行い、事業活動の透明性を高める

#### 10. 個々の力を結集し、グループ総合力を最大限に発揮する

1. 明るく活気のある職場づくりに努める
2. 安全で清潔な職場づくりに努める
3. トップフォームズブランドに誇りを持ち、その醸成に努める
4. グループ会社が相互に協力し合い、総合力を最大限に発揮する

# コーポレートガバナンス

経営における公平性、透明性を高め、ステークホルダーの皆様からの信頼を築き、企業価値の向上を目指します。

## ■ 基本的な考え方

当社は、経営信条「三益一如」のもと、社会からの信頼をより強固なものにするとともに、さまざまなステークホルダーからの期待に応えるため、企業価値、株主価値のさらなる向上を目指しています。

これらの実現のためには、すべての事業活動を自ら監視し、統制する仕組みであるコーポレートガバナンスが最も重要な経営課題であると認識しています。

## ■ コーポレートガバナンス体制

### 取締役会

取締役会は独立社外取締役2名を含む11名で構成されており、月1回、定例取締役会を開催しています。当社グループの重要事項について意思決定するとともに、取締役・執行役員職務執行の監督を実施しています。取締役会で意思決定すべき事項を含む経営上の重要な案件については、代表取締役が指名した役員で構成される経営会議で事前に審査することにより、経営効率を高め、適正な経営判断が行われるよう努めています。

### 監査役・監査役会

当社は、監査役会設置会社であり、監査役会は3名の社外監査役を含む監査役4名で構成されています。監査

役会の定期開催、取締役会や重要な会議への出席、事業所の監査を通じて、取締役や各部門の業務の適法性・適正性の監査を行います。また、定期的に会計監査人や内部監査室およびグループ会社の監査役との情報共有を図り、当社グループとして実効性の高い監査を行うよう努めています。

### その他

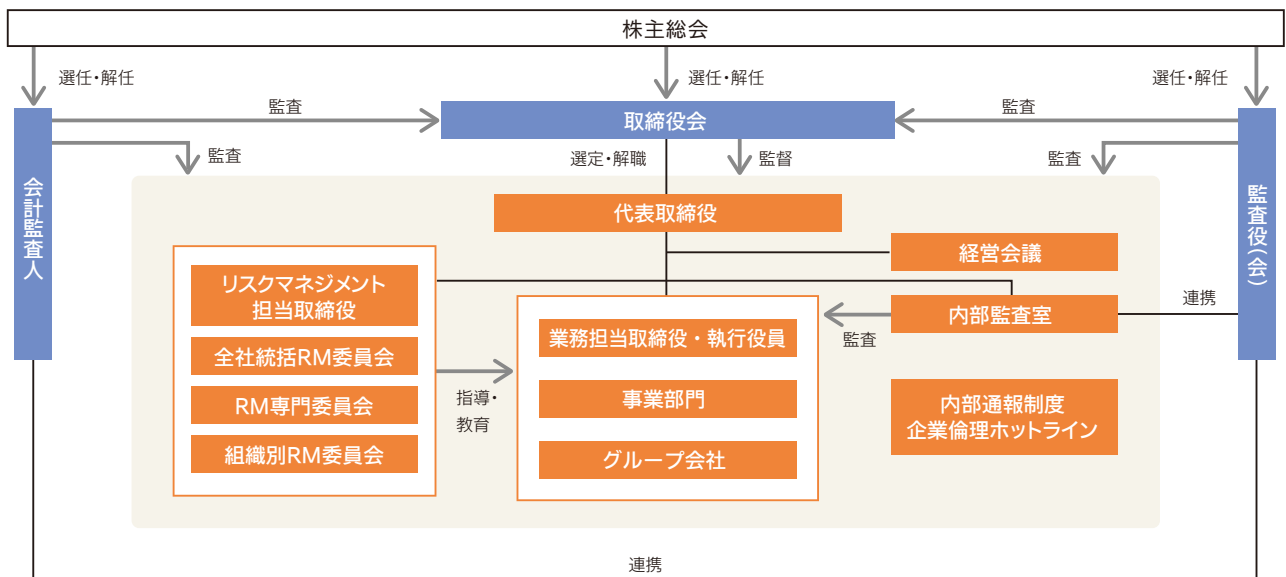
業務執行部門から独立した内部監査室を設置し、内部統制監査と業務監査を中心に、グループ会社を含む各事業所において監査を実施しています。

また、コーポレートガバナンスにおいて、危機管理体制の確立は重要なポイントとなります。当社においては、リスクマネジメント担当取締役を委員長とする全社統括リスクマネジメント(RM)委員会のもとにリスク管理体制を構築し、リスク回避の施策の検討・実施、緊急事態対応などを行っています。

## ■ コーポレートガバナンス基本方針

当社は、コーポレートガバナンスに関する方針、取り組み内容およびコーポレートガバナンス・コードへの対応状況についてまとめた「コーポレートガバナンス基本方針」を2015年11月に制定し、当社ホームページにおいて開示しました(英文版も開示しています)。

### コーポレートガバナンス体制図







<http://www.toppan-f.co.jp/etc/governance.html>

### コーポレートガバナンス基本方針の項目

1. コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方
2. 株主の権利・平等性の確保
  - (1) 株主の権利・平等性の確保
  - (2) 株主総会
  - (3) 資本政策
  - (4) 政策保有株式
    - ① 政策保有に関する方針
    - ② 議決権行使の基準
3. 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
  - (1) 行動指針
  - (2) CSR
  - (3) 多様性
  - (4) 内部通報制度
4. 適切な情報開示と透明性の確保
5. 取締役会等の責務
  - (1) ガバナンス体制
  - (2) 取締役の報酬
  - (3) 取締役、監査役の指名
  - (4) リスク管理体制
  - (5) 独立社外取締役
  - (6) 実効性確保
  - (7) 監査役、監査役会
  - (8) 会計監査人
  - (9) トレーニング
6. 株主との対話

### 基本方針のポイント

#### ●株主の権利・平等性の確保

- ・当社は、株主の権利が確保されるように対応を行うとともに、その権利を行使することができる環境を整備いたします。
- ・当社は、株主の平等性の確保や、少数株主の権利行使の確保について十分な配慮を行います。
- ・当社が、その役員や主要株主との取引（関連当事者間の取引）を行う場合には、取締役会にて審議、承認を行います。

#### ●適切な情報開示と透明性の確保

- ・当社は、当社の財政状態、経営成績などの財務情報や、経営戦略、経営課題、リスクやガバナンスに係る情報などの非財務情報について、法令に基づく開示を適切に行うとともに、法令に基づく開示以外の情報提供にも主体的に取り組んでまいります。

#### ●取締役会の実効性の確保

- ・取締役会は、取締役に求められる義務を履行可能な者の中で、さまざまな知識、経験、能力を有する者により定款の定める員数内で構成しています。また豊富な経験および見識を有する者の意見を当社の経営に反映させるため、社外取締役を選任しています。
- ・取締役会は、毎年、取締役会全体の実効性について自ら評価を行い、その機能向上を図ります。また評価結果の概要について開示しています。

#### ●株主との対話

- ・当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のため、株主を含むさまざまなステークホルダーとの対話を行い、その中で寄せられた意見や要望を経営に反映させることで、ステークホルダーとともに成長していくことを目指しています。

当社はこの基本方針の実践を通じて、公平性、透明性を確保するとともに、コンプライアンスや企業倫理など社会的責任を果たしながら、さらなる成長と企業価値の向上を図ってまいります。

# コンプライアンス

CSR活動の基盤となるコンプライアンス(法令遵守)について、さまざまな実践に取り組んでいます。

## ■ 行動指針の浸透

当社グループの行動指針は、経営信条「三益一如」のもと、法令などの遵守の徹底と企業倫理の確立を目指して、10の基本原則と55の具体的指針を置き、従業員に行動の規範を示しています。(P13参照)

### コンプライアンス推進リーダー制度

行動指針の日常活動レベルでの定着のために各職場でコンプライアンス推進責任者・推進リーダーを選任し、従業員のサポートを行っています。

推進リーダーは、行動計画に基づき自ら率先して行動指針に則した行動をとるとともに、各職場内に行動指針を浸透させ、職場における相談窓口として法務部門とのパイプ役となることが期待されています。

また推進リーダーのフォローのため集合研修を各地で行っています。2015年度は延べ8回(参加者85名)開催しました。

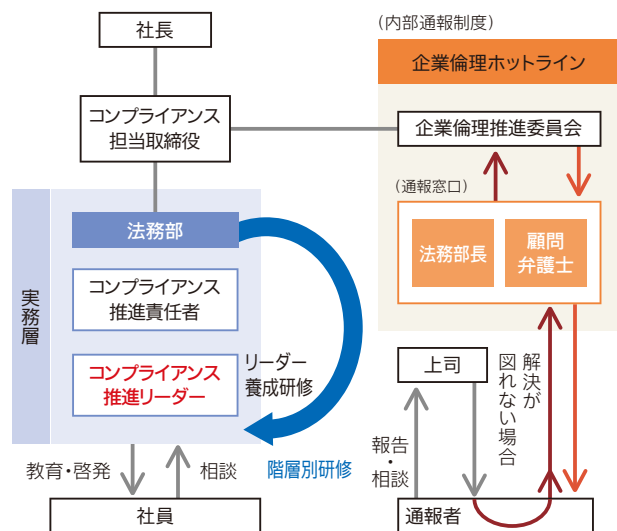
### 行動指針関連ツールの活用

規程の小冊子に加えて、身近に起こり得る事例を部門別に記載した行動指針ケースブックを従業員に配布し、推進リーダーへの浸透活動や集合教育に活用しています。



「行動指針」小冊子

### コンプライアンス体制図



## ■ 企業倫理ホットライン

全従業員対象の内部通報制度「企業倫理ホットライン」は、公益通報者保護法に対応し、通報者が不利な取り扱いを受けないよう適切な保護を行っています。法令違反や不正行為に直面した場合、上司または上位の管理者に相談することを原則とし、それでも解決が困難であると考える場合は、企業倫理ホットラインを利用し、封書かEメールにより通報窓口へ通報することを周知しています。

2015年度はパワーハラスメントに関する通報が2件ありましたが、厳正に調査し適切に対処しています。

## ■ コンプライアンス教育

行動指針の周知徹底、法令・各種規制の遵守のために各種研修・教育を法務部中心に実施しています。

### コンプライアンス教育

行動指針説明会(事例の解説などを中心)を行ったほか、新入社員研修や新任管理職研修においても、コンプライアンス教育を継続実施しました(計10回、約800名受講)。また、製造部門に対しても主要工場において教育を行いました(計7回、約350名受講)。

### 取引関連法規の遵守教育

2015年度は、営業・販促部門に対して「談合・カルテルの禁止」をテーマに、独占禁止法についての遵守教育を計4回開催し、436名が受講しました。

また、業務部門に下請法の遵守教育を実施し、65名が受講しました。

### 知的財産面の取り組み

知的財産は、企業価値を増大させる重要な経営資源の一つとして捉えています。事業の安全性の確保と成長に貢献するため、他者権利の調査を行った上で、開発成果の権利化と活用に向けた活動に取り組んでいます。研究開発部門では、特許権を主体としたキャリア層別の知的財産研修、グループ会社を含めた各部門に対しては、著作権や商標権、海外での事業展開における注意点など、知的財産に対する幅広い知識と意識の向上を図るための教育を実施しています。

## ■ コンプライアンスの状況

2015年度に、刑罰、行政罰や行政指導を受けた社会的影響の大きい法規制違反はありません。

# リスクマネジメント

トッパンフォームズグループ全社にまたがる管理体制を構築し、リスクマネジメント活動に取り組んでいます。

## ■ リスクマネジメントへの取り組み

当社は、2001年にトッパンフォームズグループにおけるリスクマネジメント基本方針を策定し、グループ全体を網羅した体制のもとで、リスクマネジメント(RM)活動を推進してきました。

### リスクマネジメント基本方針

トッパンフォームズグループをとりまく事業環境の変化はめまぐるしく、それに伴うリスクも複雑多岐に亘ってきています。この多様なリスクにグループ全体で積極的・持続的に取り組み、事業を継続させることは、社会・会社・個人相互の利益に大きく寄与し、ひいては企業価値を向上させるものであります。トッパンフォームズグループは、「リスクマネジメント活動は利益の源泉」と捉え、次に示す方針のもと全社を挙げて取り組んでまいります。

1. トッパンフォームズグループのさまざまなリスクを統括管理し、総合的なリスクマネジメント活動の推進により、経営資源の保全と有効活用を図ります。
2. 全ての組織でリスクの認識・評価・低減活動を日常業務の中で繰り返し行い、リスク対応力の向上を図ります。
3. 災害時には、人命の安全を第一に捉え地域社会と協調し、そのうえで可能な限り事業の継続を図ります。そのための態勢を整え、社会的要請に応えます。
4. 緊急事態発生時には、適切で速やかな対処で関係者の被害を最小限にとどめるとともに、早急な復旧を図ります。
5. 教育や訓練等の啓蒙活動とリスク情報の共有化により、リスク意識の浸透とリスク感性の醸成を図ります。

## ■ リスクマネジメント体制と活動

グループ各社を含む全社を統括する全社統括RM委員会のもとに全社に関連するリスクを5つのカテゴリーに分けた専門委員会と、組織またはグループ会社ごとに組織する組織別RM委員会を設置し、リスク管理の活動を推進しています。

全社統括RM委員会は、毎月開催され、全社の活動方針を明確にするとともに、専門委員会の年度計画に基づくリスク対応活動の進捗確認、組織別RM委員会のリスク対応活動の確認、新たなリスクへの対応などを行っています。

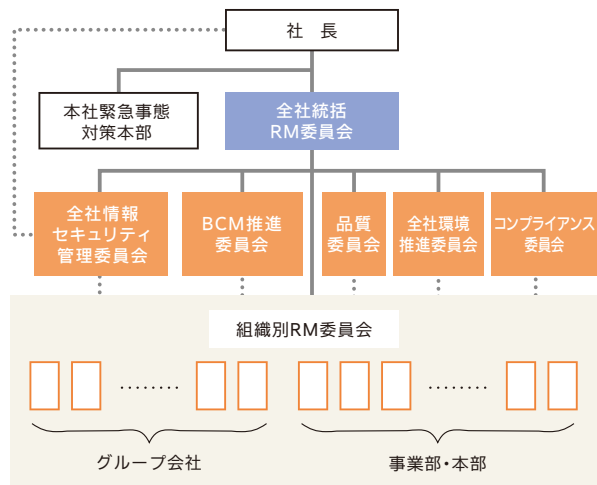
専門委員会は、全社情報セキュリティ管理委員会、BCM推進委員会、品質委員会、全社環境推進委員会、コンプライアンス委員会の5つからなり、具体的にリス

ク予防活動を計画・推進しています。

組織別RM委員会は、自組織のリスクの洗い出し・評価・重要リスクの特定を行い、年間を通してその対応活動を実施しています。

また、経営危機発生時には、迅速に対応するために本社緊急事態対策本部を設置し、現地と連携し、事案の早期解決と再発防止に向けた取り組みを行っています。

### リスクマネジメント体制図



## 2015年度の主な活動

### ●各事業所におけるRM活動の推進

組織別RM委員会では、年度当初に各委員会でリスク分析を行い、発生度や影響度から最重要リスクを評価し、年間の対応計画を作成します。その計画に基づき、1年間リスク軽減活動を実施しています。この活動を、毎年実施することでPDCAを回し、リスク管理体制のレベルアップにつなげています。

### ●本社ビルの従業員向け研修会の実施

本社ビルのある港区の防災課の協力をいただき、大震災発生時の課題、帰宅困難者対策と港区の取り組みについての研修を実施しました。当日は、本社ビル内の設備や備蓄についての説明も行き、在勤者の意識向上につながりました。



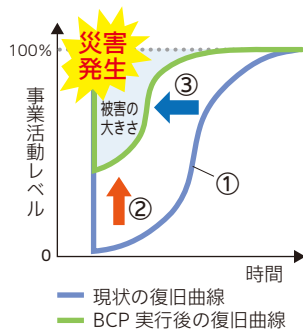
# 事業継続(Business Continuity)

災害時、人命の安全を第一に考え地域社会と協調し、可能な限り事業の継続を図ります。そのための態勢を整え、社会的要請に応えます。

## ■ 事業継続計画(BCP)策定のステップ

BCPの策定には、以下のようなステップがあります。

- ① **リスクの把握**：継続すべき事業を特定し、災害時の被害の大きさと復旧予想を把握します。
- ② **被害を減らす**：災害時の被害を最小にとどめるための対策を検討・実施していきます。
- ③ **復旧を早める**：復旧に向けた事業継続計画(BCP)の作成、訓練を繰り返すことにより復旧時間の短縮を図ります。



## ■ 事業継続への取り組み

近年、有事の際の危機管理が求められる中、災害や事故が発生した時でも、事業を可能な限り中断させず、中断した場合でも、できるだけ早急に復旧させることを目的とする事業継続マネジメントシステム(BCMS)構築が急務となっています。

当社は、お客様のデータをお預かりし、データ処理からプリント処理、封入封緘<sup>ふうかん</sup>処理、発送処理に至るまでの一連の業務を担っています。このデータ・プリント・サービス(DPS)事業を重要な事業として位置づけており、2006年度から首都圏でのBCMSの構築に着手し、2008年度にはBCP推進プロジェクト、2009年度にはBCP実行プロジェクトを立ち上げ、首都直下型地震を想定したBCPを策定しました。さらに2010年度から順次対象範囲を拡大し、2013年度は物流部門、2015年度にはBPO(Business Process Outsourcing)部門におけるBCPを策定しました。

今後も、BCPの見直しを図るとともに、訓練・演習を繰り返すことにより、PDCAを回してスパイラルアップを図り、市場の要求に対応していきます。

## JISQ22301 : 2013(ISO22301 : 2012)の認証取得

地震などの自然災害リスクに対する政府(内閣府や経済産業省など)からのBCP策定勧告、得意先からの要請など社会的にBCMSの構築に対する必要性が高まる中、当社は2013年12月に業界に先駆けて事業継続マネジメントシステムの規格であるJISQ22301(ISO22301)の認証を取得しました。

### 審査登録概要

規格	JISQ22301(ISO22301)
対象事業	DPS・DOD・BPO事業
対象事業所	トッパンフォームズ： 本社、IT統括本部(東京)、IT統括本部(関西)、日野センター、札幌事業所、中部事業所、関西事業所、西日本事業所 トッパンフォームズ・セントラルプロダクツ： 滝山工場、福生工場、川本工場、城東センター トッパンフォームズ東海：名古屋工場 トッパンフォームズ・サービス：所沢物流センター トッパンフォームズ関西：大阪桜井工場 トッパンフォームズ西日本：九州工場 山陽トッパンフォームズ：広島工場 北海道トッパンフォームズ：北海道工場
初回登録日	2013.1.16
認証番号	JP13/080262

## 2015年度の主な活動

### ● BPO事業所で認証を取得

近年、BPOの市場は著しく拡大しており、その重要性が増してきています。2015年度、当社はBPOの主力事業所である日野センターにおいてBCMS体制を構築し、JISQ22301の認証を取得しました。

### ● 安否確認訓練の実施

当社グループで導入している安否確認システムを使用した訓練を毎月実施しています。携帯電話やスマートフォンを使用し、社員の安否だけでなく家族や家屋の状態を確認、従業員の災害に対する意識の向上につなげました。

### ● 備蓄品の見直しと充実

食料と水の備蓄については、東京都が推奨する全従業員3日分に拡大しました。首都直下地震の影響を受ける可能性の高い本社ビルではランタンやエレベーターチェアー、階段避難車の増設など、備蓄品の充実を図りました。

# 情報セキュリティ

当社は、お客様から個人情報を含めた大切な情報をお預かりし、最適な形でお届けしています。国内トップレベルの個人情報取り扱い企業としての責任を持ち、常に業界のトップとして情報セキュリティの向上に取り組んでいきます。

## 情報セキュリティへの取り組み

昨年は国民に個人番号が通知され、その利用が始まりました。個人番号を含む特定個人情報の取り扱いでは監督機関として個人情報保護委員会が新設され、不適切な取り扱いに対する罰則も強化されています。2016年は特定個人情報の本番運用が始まり、個人情報の取り扱いに対する安全性の確保が課題になっています。

また、情報セキュリティに対する脅威も増加しており、サイバー攻撃や標的型のメール攻撃、社内からの悪意者による大量の個人情報の持ち出しなど、事故が急増しています。

当社は得意先からの預託情報を取り扱う企業として、個人情報保護・情報セキュリティ管理活動にグループ全体で取り組んでおり、プライバシーマークなどの必要な認証を取得するとともに、より高いレベルでの情報セキュリティ体制の構築を目指しています。

独自に作成した「情報セキュリティガイドライン」は、各事業所・工場でセキュリティのレベルに差異が出ないよう具体的な施策をわかりやすい形でまとめたもので、当社グループのセキュリティ体制確立の指針となっています。世の中の変化に合わせ毎年見直しを行い、全社のレベルアップにつなげていきます。

### 情報セキュリティ基本方針

情報処理技術の進展は、社会にとって利益をもたらす反面、大きなリスクも伴っており、そのことは情報管理サービスを業とする当社グループにとって深く関わってまいります。情報を適切に管理することは、お客様の信頼を確固たるものとしていくと同時に、社会的責務でもあります。当社グループは、このことを深く認識し、下記に示す方針の基に全社を挙げて情報セキュリティに取り組んでまいります。

1. 情報の取り扱いに際しては、法令・規範や社会秩序を遵守し、社内各種規程類に則り適切に管理します。
2. 情報セキュリティ管理委員会を設置し、情報にかかわるマネジメントシステムの整備、改善および教育や啓蒙活動を推進します。
3. すべての情報資産についてリスクを分析・評価し、安全かつ適切に活用します。
4. お客様から預託された情報は、お客様の信頼に応えられるよう、安全かつ適切に管理します。
5. 社会情勢、制度改正や技術動向を的確に把握し、情報管理体制に反映させていきます。

## PCIDSS(Payment Card Industry Data Security Standard)認証取得状況

認証の範囲	登録日
トッパン・フォームズ株式会社 デジタルメッセージング基盤	2015. 2.26

## コモンプライテリア(ISO/IEC 15408)認証取得状況

事業所	登録日
TFペイメントサービス株式会社	2013. 8. 1

## ISO27001認証取得状況

事業所	登録日
トッパン・フォームズ株式会社 IT統括本部(東京)	2003. 2. 3
トッパン・フォームズ株式会社 IT統括本部(関西)	2004. 1.30
株式会社トスコ	2007.11.22
株式会社ジェイ エスキューブ 長崎センター	2004. 9. 9
株式会社ジェイ エスキューブ 関西支店新大阪第一センター	2011. 3.14

## プライバシーマーク認証取得状況

事業所	登録日
トッパン・フォームズ株式会社	2008. 6.12
トッパン・フォームズ・セントラルプロダクツ株式会社	2012. 5.10
トッパン・フォームズ東海株式会社	2006.12.19
トッパン・フォームズ・オペレーション株式会社	2002. 8.23
テクノ・トッパン・フォームズ株式会社	2007. 3.23
トッパン・フォームズ・サービス株式会社	2002. 8. 7
トッパン・フォームズ関西株式会社	2002. 8. 7
トッパン・フォームズ西日本株式会社	2005.12. 8
山陽トッパン・フォームズ株式会社	2006. 1.17
北海道トッパン・フォームズ株式会社	2006. 1.17
株式会社トスコ	2006. 4. 6
株式会社ジェイ エスキューブ	2002. 2.25

## 2015年度の主な活動

### ●番号法への対応

個人番号の取り扱いが本番化することを受け、社内の規程および情報セキュリティに対する具体的安全施策の見直しを行いました。新たな管理策を追加し、強固なセキュリティ体制構築に向けて取り組みました。

### ●新IT(Information Technology)への対応

新しい技術を有効に、しかも安全に使うために、ソーシャルメディア、クラウドサービス、スマートデバイスなどの利用についてのルールを作成し、全社への周知・徹底を図りました。技術の進歩にあわせ今後もルールの見直しを継続し、新しい技術による業務効率向上と情報セキュリティの両立を図っていきます。

# ステークホルダーとの かかわり



## トッパンフォームズの取り組み

当社グループは、「社会益」「会社益」「個人益」の三益を優劣を付けることなく一つのごとく扱い、どれか一つでも欠けてはならないという「三益一如」を経営信条とし、その実践を通じて、当社を取り巻く社会、環境、そして顧客をはじめとしたさまざまなステークホルダーと調和しながら持続的に成長することを目指しています。また、すべてのステークホルダーに対する社会的責任を果たしていく基本的な認識のもと、ダイバーシティ&インテグレーション（多様性とその集積による成果最大化）を推進し、積極的な女性の活躍推進など働きがいに満ちた企業風土づくりに取り組んでいます。

# 地域社会とともに

各事業所では、地域とのコミュニケーションを通して、地域社会の一員としての責任を果たしています。

## 全国拠点での地域貢献活動



## 地域とのコミュニケーション

### 「ワクワク!しまもと環境学校」に出展

TFK大阪桜井工場は地元三島郡島本町が夏休みに開催した「ワクワク!しまもと環境学校」に出展しました。

このイベントは島本町が子どもたちに島本の自然や環境を楽しみながら学び、考えるきっかけにもらうことを目的として、NPO・企業が協力して開催するイベントで、当日は子ども212名、大人143名が来場しました。

大阪桜井工場は、当社は自然資源の木から作られる紙の使用により環境に負荷をかけているという考えから、工場の紙の使用について紹介し、「紙は木から作られる(紙の作られ方) ⇒ 森林破壊 ⇒ 一人ひとりができること」というストーリーでパネル展示と、紙の材料となるチップ・パルプや工場で生産している製品の現物展示を行いました。



TFK大阪桜井工場出展ブース

**島** 本町のかげがえのない自然環境を守っていくためには、住民・事業者・行政の三者のパートナーシップによる推進が必要不可欠であると考えています。

今回、TFK大阪桜井工場のみなさんには、子どもたちのための環境学習体験イベントとして開催した「ワクワク!しまもと環境学校」で、紙の製作工程を通じて紙の大切さを学ぶことのできる展示をしていただきました。



これからも引き続き、町の環境保全施策にご協力いただきますよう、お願いいたします。

島本町都市創造部 次長  
安藤 謙吾 様

### 創立50周年記念楽曲制作

当社の創立50周年を記念して楽曲を制作しました。作曲は若手ながら数々の委嘱作品を手掛けている広瀬勇人先生にお願いしました。

この楽曲は、「レ・プレリュード」と名付けられ、「前奏曲」を意味します。50周年は記念すべき節目の年であるとともに、100周年、150周年に向けての前奏であるという思いが込められています。2015年5月に開催した当社の創立記念式典でトッパンフォームズ吹奏楽団(通称BJ)により初演され、一般の方々には同年11月の定期演奏会で披露されました。

「レ・プレリュード」は、吹奏楽の盛んな中学生や高校生を対象に、一般の方々にも演奏できるように楽譜が出版されています。

音楽を通してステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図るとともに、「トッパンフォームズ」の歩んできた歴史をご理解いただければと願います。

※本楽曲の演奏をYouTube

TF公式チャンネルに掲載しています。  
QRコードからアクセスしてください。



トッパンフォームズ吹奏楽団による演奏

### 東京グリーンシップ・アクション

TFCP滝山工場の近くにある八王子市戸吹緑地保全地域の自然環境を保全する「東京グリーンシップ・アクション」(主催:東京都)に参加しています。2015年度は従業員とその家族計40名が参加しました。この活動は2003年度に始まり、行政・NPOと企業が連携し、東京



の自然環境を保全していくもので、当社グループは2006年から参加しています。

緑地保全活動では、NPOの指導により下草刈りや間伐、観察路の整備を行っています。また、自然観察も取り入れ、NPOの方から生息する植物や、間伐の必要性などを説明いただきました。

自然に親しむプログラムとして、当日集めた松ぼっくりや枯れ枝を使った炭花づくり、しいたけの菌打ちも行いました。

東京グリーンシップ・アクションに参加することにより、自然を守ることの大切さと、守るためには多くの人手が必要なことを参加者全員で実感できました。

当社グループは森林資源である紙を多く使用しており、自ら森林を守る活動に参加する意義があると考えており、今後もこの活動を継続していきます。



「東京グリーンシップ・アクション」

### 「TABLE FOR TWO」プラチナサポーター感謝状

「TABLE FOR TWO」は健康なお弁当や飲料を選ぶと、その料金の一部が開発途上国に寄付され、現地の学校給食に使われる取り組みです。当社とグループ会社の一部が2010年から順次活動に参加しており、2015年8月にはNPO法人TABLE FOR TWO Internationalからプラチナサポーター感謝状をいただきました。社員一人

ひとりが自分の健康を考えるとともに、誰にでも簡単にできる活動として、今後も対応事業所を広げていきます。



「TABLE FOR TWO」支援先の子ども

### JICA(国際協力機構)海外研修生の滝山工場見学

当社グループは2010年からJICAの海外研修生の工場見学に協力しています。今年は中国・イラク・ミャンマー・レバノンの環境行政官5名が滝山工場を見学しました。研修生は日本の環境対策を理解し自国に活かすことを目的に、さまざまな企業を見学しています。その中で印刷業界で唯一セレクトされた当社グループへの訪問は、今年で6回目となりました。

見学会では当社グループの環境への取り組みと、環境に配慮した滝山工場の設備と取り組みを紹介し、工場見学を行いました。研修生からは「VOC(揮発性有機化合物)対策や騒音・振動対策はどのように行っていますか」など、具体的な質問がありました。「滝山工場の環境に優しい事業のあり方に強い感銘を受けました」という感想もいただき、今後も継続していきたいと考えています。

この見学会が自国での活動に役立つことを願い、帰国後の活躍を期待しています。



JICA海外研修生工場見学

# お客様のために

お客様によりよい製品・サービスを提供するため、あらゆる角度から取り組みを実施しています。

## ■ 品質の保証・向上

当社グループは、お客様に満足いただける品質の製品・サービスを継続的に提供するために、品質第一の考えのもと継続的品質改善活動が重要と考え、不具合の再発防止とデザインレビューや4M\*変更管理の徹底による未然防止活動により、開発設計、製造のあらゆる生産工程において品質向上に努めた活動を展開しています。

さらに、全国の生産事業所の品質保証部門が参加する全社品質会議を開催し、品質事故の防止に向けて品質情報の共有化や品質改善策の水平展開を図っています。

また、生産事業所を中心にISO9001の認証を取得し、品質マネジメントシステムの継続的な改善を積極的に推進し、品質の向上を図っています。品質マネジメントシステムが正常に機能しているかを、年1回の品質内部監査によって常に監視しており、恒常的な品質保証体制の確立とさらなる向上を推進しています。

### ISO9001認証取得状況

事業所名	登録番号
トッパン・フォームズ・セントラルプロダクツ株式会社	JQA-QM6984
テクノ・トッパン・フォームズ株式会社	JQA-QM7957
トッパン・フォームズ西日本株式会社	JQA-QMA11040
トッパン・フォームズ東海株式会社	JQA-QMA12322
トッパン・フォームズ関西株式会社	JQA-QMA12522
トッパン・フォームズ・サービス株式会社	JQA-QMA12728
北海道トッパン・フォームズ株式会社	JQA-QMA12871
山陽トッパン・フォームズ株式会社	JQA-QMA12968
トッパン・フォームズ株式会社 BPO本部	JQA-QMA13584
トッパン・フォームズ株式会社 CMCセンター	JQA-QMA13708
株式会社ジェイ エスキューブ	FS 593139

## ■ 製品の安全性を徹底追求

当社の製品・商品をお客様に安心してお使いいただくために企画・設計段階からデザインレビューを実施し、安全性の追求に努めています。資材の購入に関しては、原材料含有化学物質管理基準およびグリーン調達基準を定め、安全と環境に配慮した原材料の調達を行い、安全でより環境に優しいものづくりに取り組んでいます。

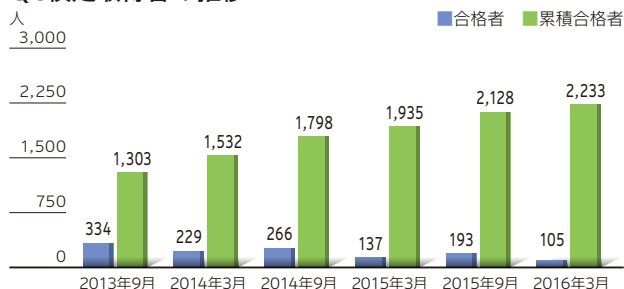
例えば、農産物用フィルムの印刷物を製造していますが、フィルム材料は「食品、添加物等の規格基準」を満たしているものを確認して使用しています。また、使用するインキにつきましても「食品包装材料用印刷インキに関する自主規制(NL規制)」に適合したインキを使用して製造しています。

また、お客様から調査依頼があった場合には、生産工場の管理システム・製品に対する化学物質の含有調査などに個別に対応しています。

## ■ 品質管理検定(QC検定)の取得推進

品質第一の「ものづくり」を行うために、品質重視の考えを風土として浸透させることが必要であると考えています。そこで、品質管理検定(QC検定)の客観的な評価と、より高いレベルへ継続的に挑戦できる点に着目し、QC検定取得を推進しています。これは品質第一に徹する人づくりこそが、目標達成の近道であると考えからです。製造部門の品質管理の責任者を対象として2012年3月に導入しましたが、2012年9月からは製造部門以外にも対象を広げ、営業、開発、スタッフなど間接部門へも展開しており、現在累計で2,233名が取得しています。今後もさらに対象を広げ、より一層全社グループ統一の品質管理レベルの維持と向上を図っていきます。

### QC検定取得者の推移



\* : 4M : Man(人)、Machine(機械)、Material(材料)、Method(方法)

## ■ お客様のニーズに応えた製品・サービス

### スマートフォンを活用した マイナンバー取得ソリューション「FastNumber」

「FastNumber／ファストナンバー」はスマートフォンのカメラ機能で通知カードや個人番号カードを撮影することにより、安全かつ効率的にマイナンバーを収集できるサービスです。

マイナンバー収集時の各従業員と総務・人事部などの取り扱い担当部門の手間を大幅に削減できます。

この「FastNumber」は、数多くの企業様に採用され、ご好評をいただいています。

マイナンバーを登録される各従業員の方は、画面の指示に従い個人情報を入力・確認し、スマートフォンで撮影した通知カードや個人番号カードのデータを送信するだけです。また、本人確認として運転免許証を撮影し、送信することも可能です。

総務・人事部門の方は、収集されたデータをダウンロードすることにより、各種手続きにご利用いただけます。

全国に支店を持つ企業様や多くのパート・アルバイトを採用されている企業様などに対して、収集業務の効率化に大きく貢献するとともに、登録時の従業員様の負荷を大幅に削減しました。

### 85社45万人以上の利用実績 (2016年2月時点)

主に従業員を多く抱える企業に活用されています。ご利用企業数は順次増えており、2016年2月時点で導入企業85社、累計利用者45万人以上の実績があります。

**全**国約60カ所2,200人近くいる従業員から、紛失・漏洩なくマイナンバーを収集することが最大の課題でした。その中でFastNumberはペーパーレスでの運用が可能であり、スマートフォン自体にも情報が残らない点が採用の決め手となりました。

また、FastNumberは操作がシンプルで誰にでもわかりやすいこともあり、結果的に予想を上回る約95%の従業員が利用、課題を解決し安全に運用することができました。実際に使用したことで、お客様に自信を持ってご提供できると実感しました。



トツパン・フォームズ株式会社  
総務本部人事部  
中家 康之

## FastNumber

### スマートフォンでマイナンバーを簡単に収集できるサービスです

まずは専用アプリをダウンロード、画面の案内に従って撮影→送信。OCR読み取りで簡単にマイナンバーの提出が完了します。



# 株主・投資家とともに

適正・公平かつタイムリーな情報開示をベースに、持続的な成長と企業価値の向上、適切な利益配分により、株主・投資家の皆様と長期的に安定した関係の構築を目指しています。

## ■ 経営活動の透明な情報開示

当社は、持続的な成長と企業価値の向上を図るとともに、適切な利益配分を行うことで、株主・投資家の皆様と長期的に安定した関係を構築しています。

また、適正・公平かつタイムリーな情報開示を目指し、コミュニケーションツールの充実を図っています。2015年度は従来のアニュアルレポートの内容を拡充した「統合報告書」を新たに発行しました。さらに、ウェブサイトの充実により、当社の事業概要や財務情報を分かりやすくご覧いただけるよう配慮しています。IR情報のページには、業績ハイライトや株主向けの小冊子「株主通信」、「統合報告書」などを掲載しています。

このほか、第2四半期および期末の決算後に機関投資家向けの決算説明会を開催して、株主・投資家とのコミュニケーションを図っています。

り、これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会としています。

2015年度の配当金は、1株当たり25円(中間：12円50銭)となりました。

## ■ 株主総会の開催

2015年6月に開催した第61回定時株主総会には、64名の株主にご出席いただきました。当日ご出席願えない株主の皆様には、書面またはインターネットによる議決権を行使いただける環境をご用意しています。

株主総会招集ご通知ならびに決議ご通知は、当社ウェブサイトに掲載しています。

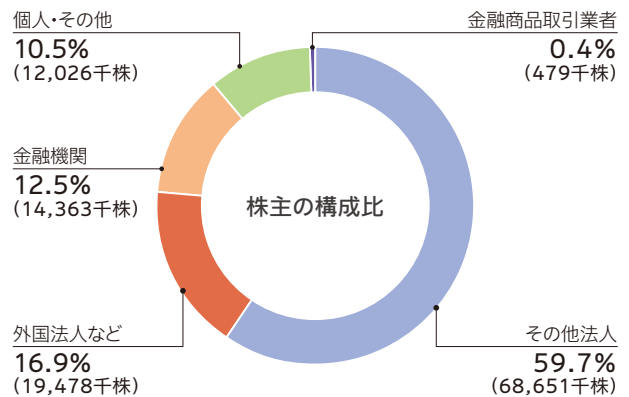
## IRに関する基本方針

### 1 情報開示の基準

当社は、東京証券取引所の定める適時開示規則を遵守したディスクロージャーを行っています。また、適時開示規則に該当しない情報についても、株主や投資家の皆様にご理解いただくために、有効な情報につきましては、可能な限り積極的かつ公平にホームページにて開示する方針です。

### 2 情報開示の方法

適時開示規則に該当する情報の開示は、同規則に従い、東京証券取引所の提供するTDnetにて公開しています。TDnetにて公開した情報のホームページへの掲載は可能な限り迅速に行います。なお、ホームページには当社が開示している情報のすべてが掲載されていない場合があります。また、他の方法で開示された情報とは異なった表現をしている場合もあります。



## 大株主の状況(上位10社)\*1, 2

株主名	当社への出資状況	
	株式数(千株)	持株比率(%)
凸版印刷株式会社	67,419	60.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	6,796	6.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,985	2.7
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	2,086	1.9
トッパン・フォームズグループ従業員持株会	2,046	1.8
資産管理サービス信託銀行株式会社	1,642	1.5
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A.	1,444	1.3
UBS SECURITIES LLC-HFS CUSTOMER SEGREGATED ACCOUNT	1,360	1.2
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	1,019	0.9
野村信託銀行株式会社	713	0.6

## ■ 配当政策

当社は企業価値の持続的な向上を目指し、事業展開や事業拡大に必要な研究開発、合理化に向けた設備投資および新規事業開拓のための成長戦略投資に重点的に利益を配分していくことを基本方針としています。

株主に対する利益還元策としては、連結配当性向を重要な指標の一つとし、継続的かつ安定的な配当を基本としています。

配当は、中間配当と期末配当の年2回を基本としてお

\*1：当社は自己株式4,003千株を保有していますが、上記の表から除外しています。  
\*2：持株比率は自己株式を控除して計算しています。

# 取引先とともに

取引先とともに、サプライチェーン全体を通して、CSRへの取り組みを積極的に推進し、互いの企業価値向上を目指しています。

## CSR調達の推進

当社グループでは、「トッパンフォームズグループCSR調達ガイドライン」の中で「CSR調達基準」を定め、取引先(原材料・設備・商品調達先および生産・加工委託先)と協働して、CSR調達に取り組んでいます。

「CSR調達基準」は、取引先にその遵守を要請する項目であるとともに、当社グループが遵守すべき基準でもあります。取引先との連携により、CSRへの取り組みをサプライチェーン全体で推進し、互いの企業価値向上を目指しています。取引先にはCSR調達の趣旨をご理解いただき、この基準を尊重していただくことを取引の基本と考えています。

## CSR調達ガイドライン

当社グループでは2009年3月に「トッパンフォームズグループCSR調達ガイドライン」を制定し、取引先に遵守を要請し周知を図りました。その後、見直しを行い、

2014年7月に第3版として改定を行いました。第3版の改定では、国連から企業への要請である「国連グローバル・コンパクト」や組織の社会的責任に関する国際規格ISO 26000を参考に、既存のガイドラインに概念として含まれていた4項目(人権、労働、環境、腐敗防止)について、基本的調達基準とは別に「人権・労働・環境・腐敗防止に関する調達基準」として細目までを明記しました。

その上で、当社グループのCSR調達の推進にご協力いただける取引先からは「協同意見書」を提出していただいています。

## サプライヤーホットラインの開設

不正・不祥事の発生を未然に防止するため、取引先から直接通報を受ける窓口を設け、調査・対応などを行う「サプライヤーホットライン」を開設しました。公平性・透明性を高め、コンプライアンス体制を強化する仕組みを整備し、社会からより一層信頼される会社を目指します。

### CSR調達基準

#### 1 基本的調達基準

- 1) 品質の維持・向上
- 2) 適正な価格
- 3) 安定供給
- 4) 製品の安全
- 5) 情報の管理
- 6) 法令や社会規範の遵守
- 7) 公正な事業活動
- 8) 知的財産権の保護・尊重
- 9) 通報者の保護
- 10) 情報の開示

#### 2) 労働

- ① 強制労働の禁止
- ② 児童労働の禁止
- ③ 差別の禁止
- ④ ハラスメント行為の禁止
- ⑤ 労働者が保有する権利の尊重
- ⑥ 労働安全衛生の確保
- ⑦ 適切な賃金の支払い
- ⑧ 適切な労働時間管理
- ⑨ 雇用の安定への配慮と、雇用主の義務の遵守

#### 2 人権・労働・環境・腐敗防止に関する調達基準

- 1) 人権  
企業活動と関連するすべての人の人権を尊重する。また、自らの活動が直接的・間接的に人権を侵害することがないようにする。

#### 3) 環境

現地の環境関連法令を遵守するとともに、大気、水質、土壌の汚染防止に努める。また、資源の使用と排出の継続的な測定・評価を行い、環境負荷の改善に努める。

#### 4) 腐敗防止

贈収賄、汚職、不適切な利益の供与・受領、強要、横領などを禁止し、これらの行為を防止する。

# 従業員とともに

「三益一如」の経営信条のもと、お客様の課題解決に役立ち、社会の一員としての責任を果たすために、「魅力ある人材の育成」に取り組んでいます。

## ■ダイバーシティ&インテグレーション

### 多様な人材の活躍

当社グループは、ダイバーシティ&インテグレーションを重要な経営戦略の一つとして推進しています。人材の多様性を活かすことが組織の活力や創造性を高めると考え、多様な人材が共に働き、互いにその価値観を尊重し合える職場形成を目指しています。一人ひとりが持つ個性と能力を十分に発揮できるように、さまざまな取り組みを進めています。

### 女性社員の活躍推進と登用

女性社員が自分の強み・特性を活かしながら活躍できる企業風土の醸成と新たな付加価値の創造を目的として、女性社員の積極的な活躍を推進しています。

2011年度より女性社員の主任クラスを対象とした「女性管理職層育成研修」を実施し、管理職への積極的登用を推進しています。同時に受講生の上司に対する研修も行い、会社全体で育成する風土づくりを進めています。

女性社員数推移 (TF単体/年度末)

	2013年	2014年	2015年
全社員数	1,839	1,854	1,879
女性社員数	337	362	375
構成比	18.3%	19.5%	19.9%

女性管理職層構成比 (TF単体/年度末)

	2013年	2014年	2015年
女性管理職層人数	24	29	30
構成比	4.0%	4.6%	4.7%

### ●女性管理職層育成研修(基本研修・管理職候補者研修)

主任職の女性社員を対象に、2段階の研修を実施。「基本研修」では、管理職としての基礎能力(思考力、コミュニケーション力、企画立案力)を身に付け、「管理職候補者研修」では、実務で直面する問題を解決する能力の強化を図っている

### ●女性管理職フォローアップ研修

管理職になった女性社員がさらに飛躍できるようサポートを行っている

### ●女性管理職層育成研修受講者の上司向け研修

女性社員が管理職として活躍していくには、上司の理

解や適切な指導が不可欠と考え、研修を実施

### ●「汐留なでしこの会」発足

汐留地区企業の女性活躍推進の会として「汐留なでしこの会」を発足。女性管理職やワーキングマザーなどが集まり、各回のテーマに沿って情報交換を行う、ランチミーティングなどを開催

### ●育児休業復帰前研修

育児休業中の社員を対象に、上司との面談や先輩ママを交えた情報交換、子どもと一緒に親子ヨガも行いながら、復帰に向けて不安を解消し準備を進める

### ●育児休業復帰者フォローアップ研修

育児休業復帰後1年未満の社員を対象に、今後の働き方について自分自身のビジョンを持つこと、受講者同士の情報交換や悩みの共有と解決を目指す

### ●育児休業取得者・時短勤務者を部下に持つ管理職のための研修

管理職が、ワーク・ライフ・バランスの重要性を理解し、時間制約のある部下のマネジメント、育成方法を身に付けることで、多様な人材の活躍を促す組織風土を醸成する

### 中高年齢層の活性化

「定年後再雇用制度」において、2013年度より高年齢社員のモチベーションの維持・向上および豊かな経験と優れた能力の有効活用を目的として、定年後の再雇用形態を複線型の「シニア社員」「キャリア社員」に再構成しました。今後もグループ全体での対応により、活躍の場の提供に努めていきます。また、早い時期から60歳以降の働き方や生活設計を考えてもらう機会として、ライフプランセミナーを開催し、40代後半に1回、60歳直前にもう1回と見直しができるようにしています。

定年後再雇用制度利用者数 (TF単体/年度)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
人数	64	72	85	95	89

定年退職者と再雇用者数 (TF単体/年度)

	2013年	2014年	2015年
定年退職者数	23	18	17
うち再雇用者数	21	17	14

## 障がい者雇用の推進

障がいのある方の個性や能力に応じた労働環境を整備することで、一人ひとりが活躍できるフィールドの拡大と創出を目指しています。

職場での支援が必要な方に、職場支援従事者として精神保健福祉士および障がい者職業生活相談員を配置し、独立行政法人高齢・障がい・求職者雇用支援機構にて第2号職場適応援助者（企業内ジョブコーチ）資格を取得、支援を行っています。

また、ハローワーク就職面接会、障害者就業・生活支援センターによる紹介など、さまざまな窓口を通じて、意欲と能力のある8名を新たに採用しました。

なお、2016年3月現在の障がい者雇用率は2.49%（TF単体）です。

## グローバル人材の育成

海外の言語と文化を理解し、自ら海外事業を推進できる人材の育成を目指した研修を行っています。今後はさらに、異文化の受容やダイバーシティマネジメント能力など、多様に変化する環境で業務を遂行することのできる人材の育成を継続的に行っていきます。

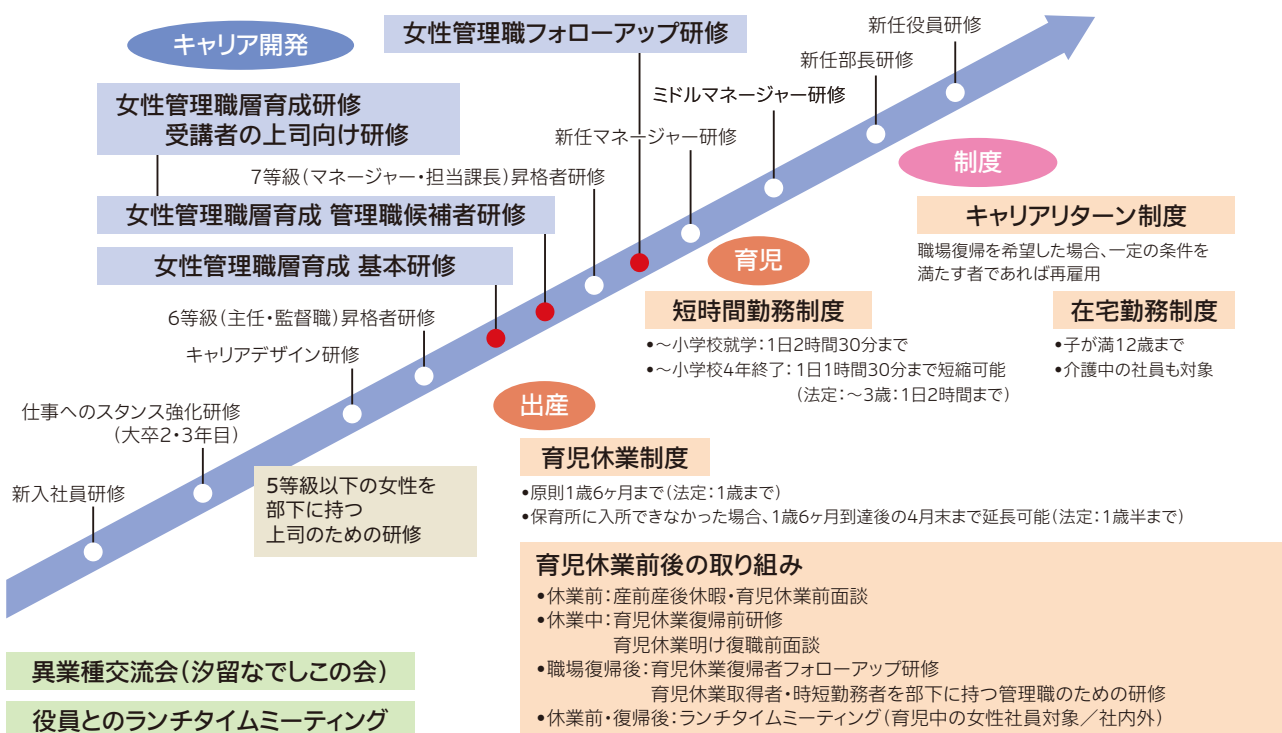
## 自己成長・自己実現の支援

### 人事施策の基本的な考え方

当社グループの従業員は、「三益一如」の経営信条のもと、遵法精神と企業倫理に基づく行動のあり方を示した「トッパンフォームズグループ行動指針」に則って日々の活動を行っています。その従業員に対する人事諸施策のあり方としては、人材の尊重と活用の観点から、職能資格制度をベースとした能力主義人事処遇体系を構築してきました。

人事諸施策の基本的な考え方は、「働きがいのある職場風土の醸成」、「個人の能力が最大限発揮される環境づくり」、「能力や業績が正当に評価され、処遇につなげる」ことをベースにおいており、従業員一人ひとりがリスクを恐れずに、新たな課題に果敢に挑戦する意欲的な集団を形成し、企業体質のさらなる強化を図っていくことを目的としています。

## 人材育成体系と女性活躍推進施策



## ■ 制度

### 自己申告3制度

2004年より各社員の能力開発促進および会社におけるキャリアプラン形成をサポートする人材活用制度として自己申告制度を導入しています。制度導入後は、定期的な面接を実施することで上司と部下のコミュニケーションレベルが高まり、社員のモラルアップにもつながっています。

#### ●キャリアプランニング制

年2回定期的に社員が希望職種、部署、勤務地などについて上司を通して会社へ申告する制度

#### ●セルフアドバンス制

随時社員が直接会社に対して将来の職務などの希望を申告できる制度

#### ●ジョブチャレンジ制

新事業、新組織などにおけるメンバーの社内公募制度

### キャリアリターン制度

2007年4月から、出産、育児、介護だけでなく、就学や転職などのキャリアアップ、結婚、配偶者の転勤などのために自己都合退職した者が、当社で再度チャレンジすることができる再雇用制度を導入しています。活躍の場を設けることにより、少子高齢化社会に対する社会的責任を果たすとともに、有用で多様な意欲のある人材を確保することによって組織の活性化を図っています。

#### 2016年度新卒採用者数

(TF単体)

	男性	女性	合計
大学院・大学・高専卒	29	20	49
高校卒	1	7	8
合計	30	27	57

#### 2015年度経験者採用者数

(TF単体)

	男性	女性	合計
採用者数	15(2)	7(1)	22(3)

( )内はキャリアアターン

### ワーク・ライフ・バランス関連制度

男女を問わず、仕事をしながら育児や介護をはじめとしたさまざまな役割を担う社員が増えてきています。柔

軟な働き方の選択肢を増やし、一人ひとりが仕事に充実感を感じることでできる環境づくりに努めています。

男性社員の育児休業取得率は21.6%、女性社員の育児休業取得率は昨年に引き続き、復帰率とも100%でした。

#### ●産前産後休暇・育児休業前面談・復職前面談

出産を迎える社員・出産を終えて会社に復帰する社員の不安感を軽減することを目的とし、面談を実施。産前産後休暇および育児休業取得社員、上司、ダイバーシティ推進担当者での三者面談を行っている

#### ●短時間勤務制度

子どもが小学校4年生終了までの間、30分単位で始業時刻の繰り下げおよび終業時刻の繰り上げを行い、労働時間の短縮が可能。小学校就学始期までは、1日につき2時間30分まで、小学校就学始期から小学校4年生終了までは1時間30分まで短縮できる

また、介護のために1日につき2時間30分まで労働時間の短縮が可能。30分単位での始業時刻の繰り下げおよび終業時刻の繰り上げを行う。時間短縮の取得可能期間は、連続して1年間もしくは通算93日

#### ●育児休業制度

子どもが1歳6カ月に達するまでの間、男女ともに育児休業を取得することが可能。保育施設に入所できない場合に限り、証明となる書類を添付し申請することにより、1歳6カ月到達後の次の4月末まで延長することができる。最初の5日間を有給化し、うち1日に限り分割取得を可とする

#### ●子の看護休暇

小学校に入学するまでの子を養育する場合、その子の看護のための休暇を取得することができる。1年に5日まで、子どもが2人以上の場合は10日まで取得可能

### ■ なでしこ銘柄 3年連続選出

当社は、2016年3月16日に女性活躍推進に優れた企業として、経済産業省と東京証券取引所が



共同で実施している「なでしこ銘柄」に選定されました。同銘柄への当社の選定は、3年連続となります。



## ●介護休業

負傷、疾病または身体上もしくは精神上の障がいのある方の介護が必要となる場合、介護休業を取得することができます。同一介護対象者について、連続して1年間もしくは通算93日とする

## ●介護休暇

1年に5日まで、介護対象が2人以上の場合は1年に10日まで取得することが可能

## 働き方の改革

### ●在宅勤務制度(テレワーク)

満12歳までの子を養育する社員または介護を必要とする方がいる社員に限り、在宅勤務をすることができる。開始、終了報告は電話もしくはメールにて上司へ連絡し、当日中に日報にて業務内容を報告することで業務管理を行う

### ●ノー残業デー

総労働時間短縮については、従業員の健康管理やコンプライアンスの観点も含めた取り組みを行っている。2010年度から継続して全社一斉「ノー残業デー」の取り組みを実施し、労使共同での職場巡回による啓発を図り、あわせて、業務量の削減や業務配分・人員配置などの見直しを行い、業務の効率化を推進

さらに、業務内容に適合した勤務体制の適用、深夜・休日労働の原則禁止などを行い、労使が一体となって長時間労働削減に取り組んでいる

### ●ゆう活

2015年度より「夏の生活スタイル変革」として夏季期間に以下のような取り組みを実施。現行の勤務制度を活用して朝型勤務を推奨するなど、一日の時間を有効に使いワーク・ライフ・バランスを推進することが目的

- (1) 18時以降の社内会議を原則禁止
- (2) 深夜残業の禁止
- (3) ノー残業デー設定日を増設
- (4) ポスターによる周知

### ●多目的休暇制度

有給休暇のうち3日間を計画的に取得する制度。個人単位で1日と事業所または所属部署単位で2日を設定する。有給休暇の取得促進を目的に2008年度から導入

## ■安全・安心な職場

### 基本的人権の尊重

当社グループの「行動指針」の基本原則に、「基本的人権の尊重」を掲げ、具体的な行動指針として「1.個人の多様な価値観を認め、人格と個性を尊重する」、「2.いかなる差別行為も行わない(すべての人の人権を尊重し、性別や年齢、国籍、人種、民族、信条、宗教、社会的身分、障がいの有無などによる差別や個人の尊厳を傷つける行為を行わない)」、「セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントを行わない」ことを明記しています。

職場におけるセクシュアルハラスメント防止策としては、制裁条項を就業規則に明記したほか、社内にセクハラ・パワハラ相談窓口や苦情処理機関を設置して問題の早期解決、防止に努めています。

### ゼロ災活動

当社の労働安全衛生への取り組みは、トッパンフォームズグループ全体で審議推進する場として、グループ会社も含む総務部門長による「中央安全衛生防火委員会」を組織し、事業所単位では労使で企画・運営する安全衛生委員会を設置しています。労働災害の原因となりうる箇所の洗い出しを行い、適切な安全対策の実施と事業所間での水平展開を行うことで事故の未然防止に努め、労働災害発生時には、グループ全体で事故の状況や発生原因について情報の共有化を行い、共通の事故対策を実施することで再発防止を図っています。また、「全国安全道場キャラバン」を展開し、労災事故の撲滅実現に向け、生産機材による挟まれ・巻き込まれなどを体感できる6種類の「危険体感機」を利用し、潜在する危険を実体験して、安全に対する意識づけを行う内容となっています。

**当** 社有明センターでは年2回、東京防災救急協会の救命講習に参加していますが、職場に高齢のスタッフが多いこともあり、2015年10月からは管理担当者全員(対象22名)が、深川消防署開催の普通救命技能講習を継続的に受講。従業員が体調を崩すなどの緊急事態発生時の救命処置を学ぶなど、安心して働ける環境を整えました。今後も従業員の健康を第一に取り組みを進めていきます。

株式会社ジェイ エスキューブ  
第四営業本部第二サービス部管理一G 木村 明博

※P4-5で「健康経営」を特集しています。

# 地球環境との かかわり



## トッパンフォームズの取り組み

トッパンフォームズでは、環境保全活動を企業の責任の一つと捉え、独自の環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善を行っています。そして地球環境の保全への取り組みとして、環境マネジメントシステム(EMS)を推進し、事業活動における環境負荷の低減を図るとともに、環境配慮型製品の開発・提供を通して環境保全に貢献しています。また、温室効果ガス排出量の新しい算定基準(スコープ3)を採用し、自社の企業活動だけではなく、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量削減に取り組んでいます。

# 環境マネジメント

地球環境の保全が全人類の重要課題であることを認識し、環境マネジメントシステム(EMS)を推進して事業活動における環境負荷の低減を図るとともに、環境配慮型製品の開発・提供を通して環境保全活動を推進しています。

## ■ 環境に関する基本理念・方針

当社は、経営信条「三益一如」のもとで企業活動を行っています。地球環境保全についてもこの信条に基づいた「環境に関する基本理念・方針」を制定し、さまざまな活動に取り組んでいます。

### 基本理念

トッパンフォームズは、地球環境の保全が、人類共通の重要課題である事を認識し、企業としての社会的責任を果たすために、適切な施策を全社的に、継続的に展開してまいります。

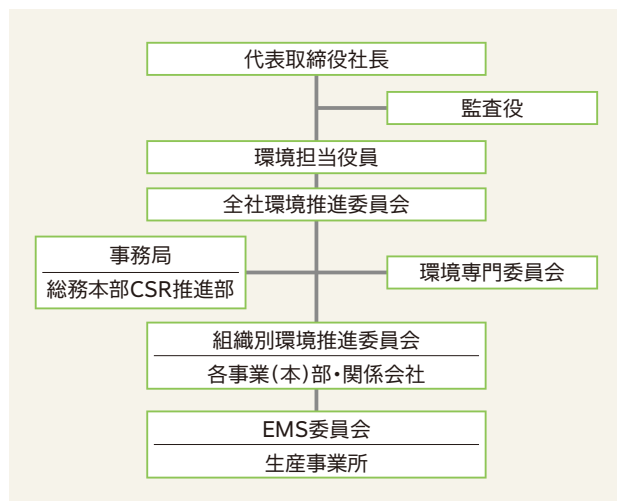
### 方針

1. 環境の確保と社員の意識高揚
2. 省資源・省エネルギー・リサイクルの推進
3. 法規制の遵守
4. 廃棄物の削減・環境汚染の防止
5. エコ商品の開発・販売
6. 生物多様性への対応

## ■ マネジメントシステムと体制

当社グループの環境保全活動を継続的に推進するために、「全社環境推進委員会」、「環境専門委員会」、「組織別環境推進委員会」および「EMS委員会」を設置しています。これらの環境組織は、代表取締役社長および環境担当役員が管轄し、事務局が運営を行っています。

### 環境マネジメント体制図



## ISO14001認証取得状況

事業所名	登録番号
トッパン・フォームズ株式会社中央研究所	JQA-EM3911
トッパン・フォームズ東海株式会社	JQA-EM4171
トッパン・フォームズ西日本株式会社	JQA-EM4512
トッパン・フォームズ関西株式会社	JQA-EM5802
山陽トッパン・フォームズ株式会社	JQA-EM6415
トッパン・フォームズ・セントラルプロダクツ株式会社	JQA-EM6727

## ■ 環境監査

当社はグループすべての生産事業所に対し、社内環境監査を年1回実施しています。監査は総務本部CSR推進部が主管となり、対象事業所の環境関連法規制の遵守状況を中心に、環境目標の達成状況などを確認・評価します。

監査終了後にはフォローアップとして全対象事業所との監査報告会を実施し、各事業所の監査指摘事項と関連法令について説明するとともに、指摘事項に対する具体的な対策を示し、監査指摘情報の共有を図っています。



環境監査の実施状況

## ■ 環境教育

生産事業所の環境担当事務局に対し、環境情報連絡会を四半期に1回実施しています。この中では環境に関する基礎知識の習得を目的として、環境関連法令の勉強会と法改正に対する具体的な対応方法などの情報発信を行っています。

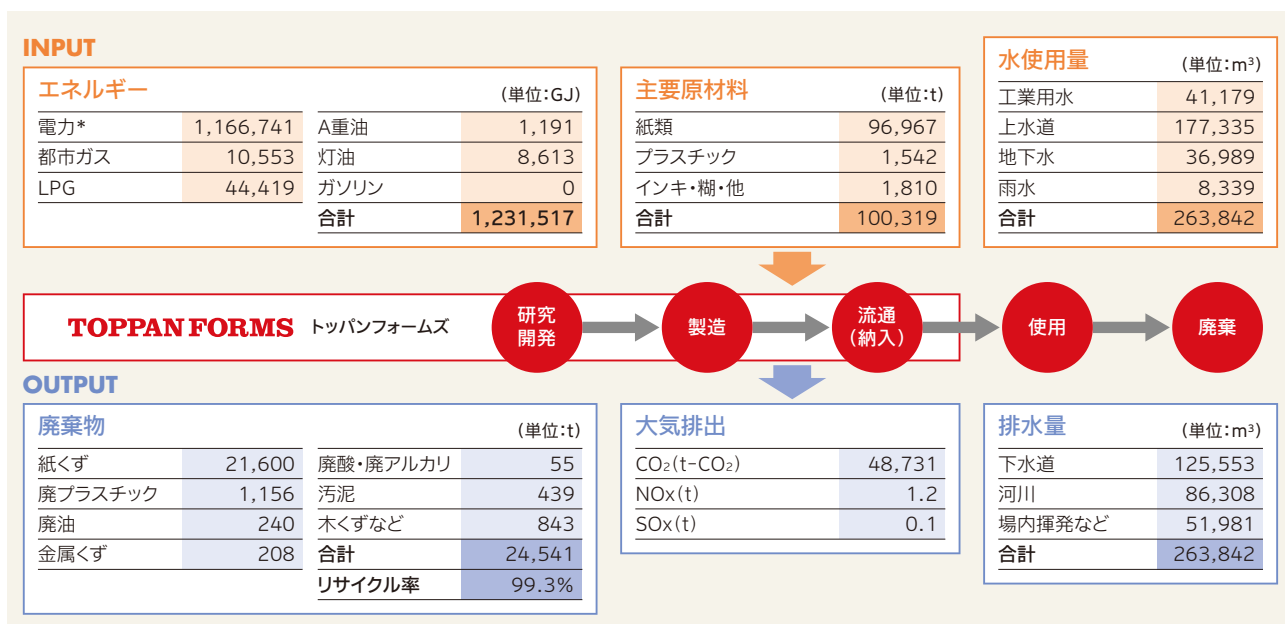
また、全従業員に対し毎月1回「環境かわらばん」を発行し、さまざまな環境情報を発信して従業員の環境意識の向上を図っています。

## 2015年度の環境目標・実績と2016年度環境目標

2015年度環境目標	2015年度実績	評価	2016年度目標
<b>1.地球温暖化防止への取り組み(CO<sub>2</sub>排出量総量の削減)</b>			
対2014年度比 1.0%減	対2014年度比 10%減	A	・対2015年度比 1.0%減(原単位)
<b>2.循環型社会形成への取り組み(廃棄物最終埋立量の削減)</b>			
対2014年度比 5.6%減	対2014年度比 2.1%減	B	・廃棄物排出量 対2015年度比 1.0%減(原単位)
<b>3.化学物質リスクの抑制</b>			
製品含有化学物質管理	「製品含有化学物質管理ガイドライン」の見直し	B	・「製品含有化学物質管理ガイドライン」の運用
<b>4.生物多様性への取り組み</b>			
森林認証制度の維持・拡大など 環境保全社会活動の積極的推進	FSC®認証紙を使用したストックフォームの生産開始	A	・森林認証紙使用の拡大
<b>5.環境コミュニケーションの促進</b>			
情報公開の促進 CSR報告書の発行(6月末)	「エコプロダクツ2015」へトップパングループとして共同出展 CSR報告書を6月末に発行	A	・「CSR報告書2016」の発行
<b>6.環境マネジメント(環境リスクの回避)</b>			
法規制を包括した適切な社内管理 基準の設定と遵守	法令違反・行政指導・外部からの苦情の実績なし 社内16事業所に対し、環境監査を実施	A	・環境監査の実施

評価基準：S・・・目標を大幅に上回る成果があった A・・・目標を概ね達成できた B・・・積極的に取り組んだが目標達成には至らなかった C・・・取り組みが不十分だった

## 2015年度 事業活動における環境負荷



\*：電力使用による発熱量は一律0.00983GJ/kWhで算出しています。

# 研究・開発

環境配慮型製品の環境主張をもとに、製品のライフサイクル全体を見据えた研究・開発を行っています。

## ■ 研究開発における基本的考え方

トッパンフォームズは、製品のライフサイクル全体を考え、従来品と比べて環境に負荷を与えず、環境配慮に優れている製品を開発します。また、開発製品に関する安心・安全を確保するために、使用する原材料に関して、環境負荷の低減および安全衛生の確保を目的とした原材料選定基準を定め、それらの基準に適合している原材料を調達することを原則としています。

## ■ 中央研究所における環境方針

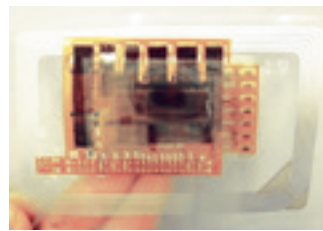
中央研究所は、地球環境の保全が人類共通の重要課題であることを認識し、研究開発を通じて社会的責任を果たすことを基本方針としています。

「研究開発成果の市場リリースによる環境影響の低減」を目的として、環境マネジメントシステムを確立し、研究開発業務を計画的に実行することにより、社会の環境負荷の低減、環境汚染の予防に努めています。

## ■ 研究開発における環境に配慮した新技術

### 高性能有機半導体を用いた温度センサ機能付き電子タグの開発

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のプロジェクトに参画し、印刷で製造可能な有機温度センサと高性能有機半導体回路を開発し、電子タグとして温度センシングと商用周波数での温度データ伝送に成功しました。デジタル回路を用いる低消費電力の設計と室温近くの大気中での半導体製造工程により省エネルギーを、そして温度センサタグを活用した物流の効率化によるCO<sub>2</sub>の削減を目指します。



「NanoTech2015」で展示されたサンプル

## トッパンフォームズ環境配慮型製品における環境主張

ライフサイクルステージ	主張項目	主張の概要
全体	温室効果ガス対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カーボン・オフセットを組み込んだ製品・サービスの提供</li> <li>● 再生可能エネルギー(グリーン電力など)を活用する製品・サービスの提供</li> <li>● GHG*1排出量を明記した製品・サービスの提供(カーボン・フットプリントなど)</li> </ul>
生産と流通段階	安全素材の使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PRTR法指定462物質を削減している</li> <li>● 得意先の要望による禁止物質を使用していない</li> <li>● 焼却時に有害ガスの発生を低減させる材料を使用している(現状、使用後に焼却処理される可能性がある製品に限る)</li> </ul>
	再生材料の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクル素材を用いた製品である</li> </ul>
	持続可能性に配慮された材料を使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再生可能な天然資源を持続可能に利用している</li> </ul>
使用段階	省資源・省エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 材料投入量を削減している(従来品との比較)</li> <li>● 生産工程、製品、包装の改善による固体廃棄物を削減している</li> <li>● 生産工程および物流過程でエネルギー消費を削減している</li> <li>● 製品の稼働にともなうエネルギー消費を削減している</li> </ul>
	長期使用可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 耐久性、修理や部品交換の容易さ、保守・修理サービスの充実度と期間の長さ、機能拡張性やアップグレードの可能性を考えている</li> </ul>
使用後段階	再使用可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品や部品をそのままの形状で同じ用途に使用する。使用済み製品が回収され、再使用されるシステムがある</li> </ul>
	リサイクル可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクルが可能である。素材ごとに分離・分別し、材料としてリサイクルできる。リサイクルのための施設、システムがある*2</li> </ul>
	処理・処分が容易	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品の解体が容易な設計である</li> <li>● 埋立処理の場合、土壌汚染の防止対策を施してある</li> <li>● 生分解性、光分解性などにより物質が分解して環境に同化する材料である</li> </ul>

\*1 : GHG(Greenhouse Gas) : 温室効果ガス。

\*2 : ただし、容器包装リサイクル法で回収・再商品化を義務づけられている容器包装については、「紙」「プラスチック」それぞれのマテリアルリサイクルに支障とならない工夫がなされていること。

# 環境に配慮した製品・サービス

当社は、環境主張をテーマに環境配慮型素材を活用した製品やサービスを提供しています。

## FSC®およびPEFC™のCOC認証の取得

世界の森林を対象とした森林認証制度としては、FSCとPEFCがあります。当社は2006年にFSC、2008年にPEFCのCOC認証\* (Chain of Custody認証) を取得しました。



●責任ある森林管理のマーク

認証登録番号：SA-COC-001571

2006年8月取得

## FSC(Forest Stewardship Council®) : 森林管理協議会

環境・社会活動にかかわる団体、先住民団体、林業にかかわる人々、林産物認証機関など、森林管理にかかわる利害関係者を代表する組織および個人に開かれた会員制の組織です。



●持続可能な森林管理の促進

www.pefc.org

認証登録番号：SA-PEFC/COC-001571

2008年11月取得

## PEFC(Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes)

林業にかかわる人々、政府、労働組合、環境団体、その他のNGOやNPOなどの利害関係者の参画に基づき、各国で個別に策定された森林認証制度の審査およびそれら制度間の相互承認を推進する組織です。

## FSC認証ストックフォームの発売

2015年8月FSC認証紙を使用したオーダーストックフォームの生産をSTF呉工場で開始しました。

## 森林認証コピー用紙の販売

FSC・PEFC認証のコピー用紙を販売しています。お客様は森林認証製品を選ぶことで持続的な森林経営や林業を間接的に支援することができます。

当社グループは、持続可能な社会を実現するために、お客様への積極的な森林認証紙の活用をご提案し、認証製品を普及させていきます。



## カーボン・オフセット付き封筒・はがき

封筒とはがきにカーボン・オフセットを付けました。磐城造林(株)社有林における田人町旅人での森林吸収プロジェクト(J-VER登録番号0061)、岩手県沿岸地域における震災がれき再資源化による復興プロジェクト(J-VER登録番号0245)を支援してオフセットします。



## エコプロダクツ2015

2015年12月10日～12日、東京ビッグサイトで「エコプロダクツ2015」が開催されました。当社はトッパングループとして出展し、CO<sub>2</sub>削減に貢献する高機能保冷剤「メカクール」「メカクール用保冷箱」と環境保全活動のパネルを展示しました。ブースの来場者は昨年を大幅に上回り、大盛況でした。



\* : COC認証：適切に管理された森林(Forest Management認証)から切り出された木材が、加工・流通の段階において他の木材と混ざることなく管理されていることを認証する制度。

# 環境コミュニケーション

環境活動を通して社内外の幅広いステークホルダーとのコミュニケーションを図っています。

## 家庭で取り組むエコアクション

当社グループでは環境保全活動を職場だけの活動に留まらず、家庭で家族と一緒に取り組む「家庭で取り組むエコアクションプログラム」を2012年から夏休みと春休みに実施しています。

2015年度は夏休みに従業員から環境に関するポスターと標語を募り、春休みは家庭ゴミ削減プログラムを実施しました。この活動も毎回参加者が増えており、着実に従業員の意識が上がってきています。ポスターと標語は事業所に掲示し、従業員の環境意識の向上に役立っています。

### 応募作品(ポスター)



今回の環境ポスターは、普段何気なく生活している中で、エコに対し自分たちが改めて何ができるかを考えながら夫婦で描いてみました。

ポスターの一つは、こんなにも温暖化してしまった日本の国をイメージしました。もう一つは将来自然が簡単に消えていってしまうイメージをシャボン玉をモチーフにしました。

一人ひとりできることは小さくても、常にエコを意識して生活することが大切だと感じています。



トッパン・フォームズ株式会社  
営業統括本部  
佐藤 博司

### 応募作品(標語)

- 『ゴミ拾う 親の背中を 見て育つ』
- 『もったいない 思う心で エコアクション』
- 『リサイクル 考えひとつで おくりもの』
- 『シャワーはね 出しっぱなしは いけないよ』
- 『スーパーに 行くときもってく エコバック』
- 『えんぴつ最後までありがとう。 えんぴつを大事に使おうね!』
- 『牛乳パックでトイレトペーパー! ちがう顔になってこんにちほ。』

## 第14回印刷産業環境優良工場表彰

日本印刷産業連合会主催の第14回印刷産業環境優良工場表彰制度において、TFT静岡工場が「日本印刷産業連合会長賞」を受賞しました。

当社グループは生産工場を中心に省資源・省エネルギー・廃棄物の削減・地球環境汚染の予防など、環境保全活動に取り組んでいます。静岡工場では自主的なボトムアップ活動の小集団活動が活発で、その中で具体的に生産効率の向上と不良品発生抑制活動を行っています。生産効率を向上し、不良品発生を抑制することで環境対応と利益の創出を両立させ、全員参加の仕組みづくりにつなげていきます。

静岡工場は創業37年となる歴史ある工場です。最新の環境設備はありませんが、従業員全員で環境保全活動に取り組んでいることが評価されました。これからも従業員全員が、地球環境の保全が全人類の重要課題であることを認識し、環境保全活動を継続して推進していきます。



授賞式



TFT静岡工場のスタッフ

# 環境パフォーマンス

さまざまな環境パフォーマンス指標を集計し、現状把握と今後の改善活動の材料としています。

## 地球温暖化防止への取り組み

当社グループのエネルギー使用量の94%は電力です。全社の電力使用量のうち、生産事業所での使用が90%です。電力使用量の削減に最も効果のあるものは、生産工程で発生する損紙を削減することです。フルカラーデジタル印刷機を積極的に導入し、従来は印刷機とプリンター機の2工程で製造していた製品を1工程で製造できるようにしてエネルギー使用量を削減しています。また、工程を減らすことで予備品の製造量も減らすことができます。

全生産事業所で小集団改善活動を展開し、生産効率の向上・損紙の低減活動に取り組んでいます。この小集団改善活動とトップダウンで進めている5S活動を両輪として生産活動を進め、環境負荷の低減に結びつけています。

その他に各種設備のインバーター化、照明のLED化、ボイラー温水の適正温度管理など、細かい施策の積み重ねでエネルギー使用量を削減しています。

2015年度のCO<sub>2</sub>排出量は目標の2014年度比1.0%削減(原単位)に対し、10.4%(496トン)の減少となりました。

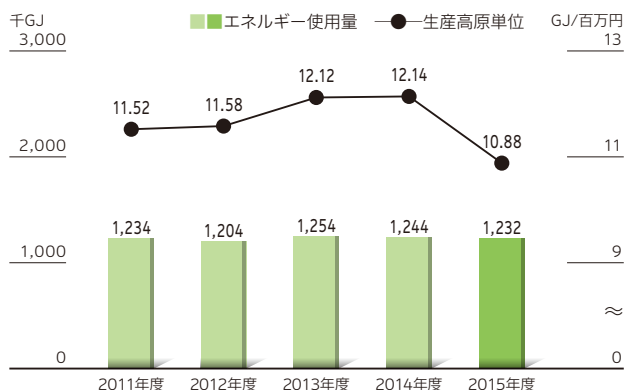
今後もハード面とソフト面の両面からの取り組みによりエネルギー使用量の削減を図っていきます。

## Scope3の算定

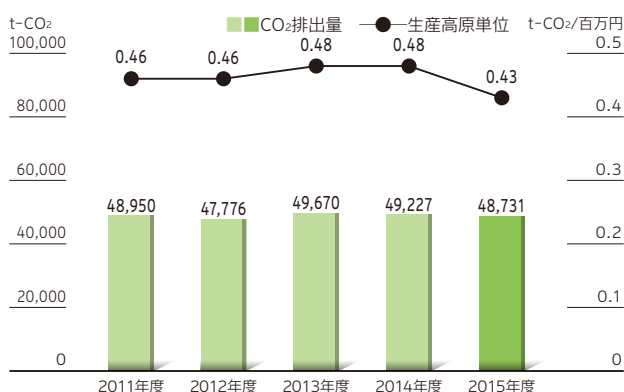
近年、温室効果ガス(GHG)の排出量は自社だけではなく、サプライチェーンを通じた排出量を把握・管理することが社会的な要求となっています。当社グループは企業活動にともなう温室効果ガスの中で、排出割合が高いカテゴリーを明確にし、削減への取り組みを的確に効率よく実施するための判断の目安として2013年度からScope3を算定しています。

その結果、原材料使用量に起因する排出量が最も多いことがわかりました。今後も継続的に排出量を把握し、環境負荷低減活動を積極的に推進していきます。

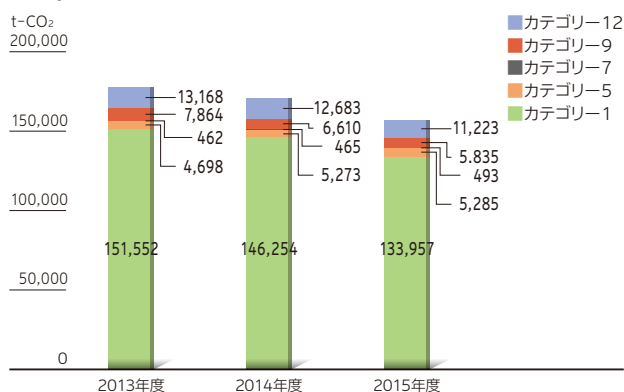
エネルギー使用量・生産高原単位の推移\*2



CO<sub>2</sub>排出量・生産高原単位の推移\*3



Scope3の温室効果ガス排出量



\*1: カテゴリー1: 購入した製品・サービス。5: 事業から出る廃棄物。7: 雇用者の通勤。9: 輸送・配送(下流)。12: 販売した製品の廃棄。  
 \*2: 電力使用による発熱量は一律0.00983GJ/kWhで算出しています。  
 \*3: CO<sub>2</sub>排出量は、環境省の「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(平成15年)」に基づき算出しています。



## 循環型社会形成への取り組み

当社グループから排出される廃棄物は、紙くずが90%を占めています。紙くずは99.8%がリサイクルされていますが、紙くずの削減(損紙低減)が廃棄物削減の重要なテーマとなっています。また、当社グループが使用する原材料は紙類が97%を占めています。紙の材料である木は適正な管理をすることで持続可能な資源として使用できますが、損紙低減は使用する材料を削減する省資源にもつながります。

製造担当役員が管轄する全生産事業所参加の損紙削減活動を実施しています。この活動では定期的な情報交換会議を開催し、各工場の有効な施策を全国の工場へ展開しています。現場には個人・グループごとの損紙削減目標と実績を掲示しモチベーションアップを図っています。

このような継続した活動により、2015年度廃棄物排出量は2014年度比2.1%減少しました。今後も全社で損紙削減に積極的に取り組み廃棄物削減と省資源活動を推進していきます。

## 水の使用状況

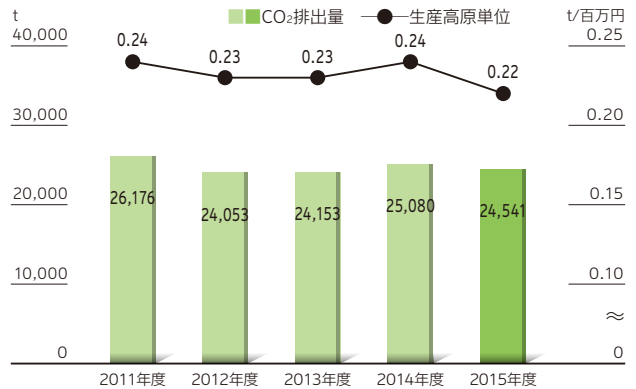
生産事業所で使用する水は、地下水と水道水です。主に生活用水、空調冷房機や印刷機の冷却用水として使用しています。

滝山工場では雨水を350トンの貯留槽に溜め、トイレ洗浄水や植栽の散水として利用しています。

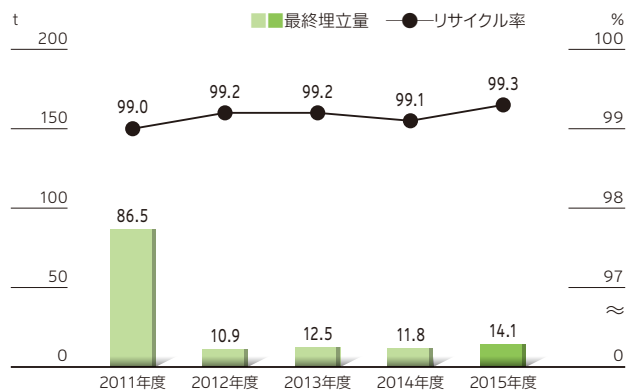
## 化学物質管理

当社グループでは、化学物質管理の全社統一手順として「製品含有化学物質管理ガイドライン」を作成し、製品含有化学物質管理の強化に取り組んでいます。化学物質管理は自社内での取り組みだけではなく、サプライチェーン全体で連鎖的に取り組むことが重要です。今後も継続して管理体制を強化し、運用を図っていきます。

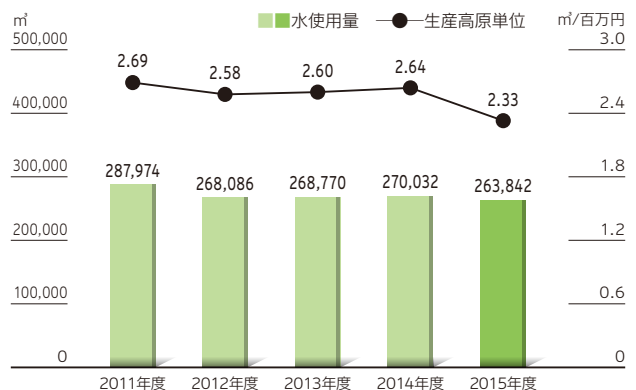
廃棄物発生量と生産高原単位の推移



リサイクル率と最終埋立量の推移



水使用量の推移



# 第三者意見

トッパンフォームズ「CSR報告書 2016」における当社の取り組みについて、立命館大学大学院客員教授の池田耕一先生よりご意見をいただきました。



立命館大学大学院経営管理研究科客員教授  
一般社団法人 経営倫理実践研究センター  
上席研究員  
社会と企業研究所 所長

池田 耕一 氏

CSR(企業の社会的責任)は実にさまざまな外延と内包を有し、かつては名実ともに百家争鳴の状況でした。しかし、10年間にわたる国際的討議を経てISO(国際標準化機構)26000が2010年に策定され、CSRの主題と構造が世界的に概ねの了解を得るところとなりました。その二大キーワードは、ステークホルダー(利害関係者)とサステナビリティ(持続可能性)です。

2015年に創立50周年を迎えたトッパンフォームズにおいて、その二大キーワードの意味するところが見事なまでに同社に深く浸透し、そして実現されている状況を確認することができます。「CSR報告書2016」冒頭のトップメッセージで、創業と同時に社会益・会社益・個人益の三益(いわばステークホルダーと自社の利益)を併せて追求する経営信条「三益一如」を制定し、以来たゆまず実践してきたことが語られています。注目されるのは、「私たちが目指す“グッド・カンパニー”とは、・・・ステークホルダーの皆様との共感構造を大切にできる会社」との経営トップの言葉です。経営信条が組織の血肉となっていることを実感します。1965年創立当初のベンチャー企業が今日の姿にまで大きく発展したこともむべなるかなの感がありますし、今後の持続的発展も予感することができるように思います。サステナビリティの素晴らしい様相だといえましょう。

このように、CSRの本質的把握に基づく同社の活動は半世紀の長きにわたります。「CSR報告書2016」には、その半世紀の活動を経た最新の状況が等身大で報告されています。

特集1では、主なステークホルダーの一つであり、同時にCSRに取り組む主体でもある「従業員」を対象とする健康経営の取り組みが分かりやすい文章と写真で紹介さ

れています。特集2では、お客様という主なステークホルダーの重要関心事である「情報セキュリティ」について、サイバー攻撃から預託個人情報などを守るための組織的かつ計画的な取り組みがいくつかの的確な図とともに明快に説明されており、信頼が高まります。

個々の具体的取り組み内容については、ステークホルダーのすべてにかかわるコンプライアンスなどの「CSRマネジメント体制」、地域社会など主なステークホルダーごとの活動を記載した「ステークホルダーとのかかわり」、環境マネジメントなどの「地球環境とのかかわり」に大別して報告されています。適切な大区分の設定であり、多種多様な取り組みの構造的把握を可能にしています。さらに、それぞれの個別テーマの取り組みについて、明確な図表や平易な言葉を使用するとともに専門用語には簡潔な脚注をつけるなど、分かりやすく、そして、見やすく報告されていることは同社「CSR報告書」の大きな特長です。なお、PDCAマネジメントサイクルの枠組みによる「2015年度の実績と2016年度の施策」によって、広範かつ多彩な取り組みの現状と課題の一覧が可能となっています。ステークホルダーの視点に立った労作といえましょう。

蛇足を申し上げますと、今後の最大の留意点は多くの企業が陥りがちな「経営理念の形骸化」の防止だと思われます。防止のために重要なことはトップメッセージで言及されている「積極的な情報開示」です。等身大の情報開示をいつ、いかなる状況でも積極的に実行することが形骸化を防ぐための最も有効かつ効率的な施策だといえましょう。末長く経営信条「三益一如」を実践していかれることを心から期待しています。

## ISO26000対比表

ISO26000の中核主題	該当項目		頁
組織統治	トッパンフォームズのCSR	CSRの基本的な考え方、CSR推進テーマの設定・運用、CSR活動の推進	8～9
	コーポレートガバナンス	基本的な考え方、コーポレートガバナンス体制、コーポレートガバナンス基本方針	14～15
人権	従業員とともに	ダイバーシティ&インテグレーション 安全・安心な職場	28～29 31
	従業員とともに	自己成長・自己実現の支援、制度	29～31
環境	地球環境とのかかわり	環境マネジメント、環境コミュニケーション、環境パフォーマンス	33～39
公正な事業慣行	行動指針		13
	コンプライアンス	行動指針の浸透、企業倫理ホットライン、コンプライアンス教育、コンプライアンスの状況	16
	リスクマネジメント	リスクマネジメントへの取り組み、リスクマネジメント体制と活動	17
	株主・投資家とともに	経営活動の透明な情報開示、配当政策、株主総会の開催	26
	取引先とともに	CSR調達の推進、CSR調達ガイドライン、サプライヤーホットラインの開設	27
消費者課題	事業継続	事業継続計画(BCP)策定のステップ、事業継続への取り組み	18
	情報セキュリティ	情報セキュリティへの取り組み、基本方針	19
	お客様のために	品質の保証・向上、製品の安全性を徹底追求、品質管理検定(QC検定)の取得推進 お客様のニーズに応えた製品・サービス	24 25
	研究・開発	研究開発における基本的考え方、中央研究所における環境方針、 研究開発における環境に配慮した新技術	35
	環境に配慮した製品・サービス	森林認証の取得、カーボンオフセット付き製品	36
コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	地域社会とともに	全国拠点での地域貢献活動、地域とのコミュニケーション	21～23
	環境コミュニケーション	家庭で取り組むエコアクション、第14回印刷産業環境優良工場表彰	37

## 編集後記

「トッパンフォームズCSR報告書2016」をご覧いただきありがとうございました。

ステークホルダーの皆様にご覧いただきありがとうございます。本書も、7回目の発行を迎えました。今回は、「健康経営」と「情報セキュリティ」を特集として取り上げました。それは企業の発展を支えるのは、そこで働く従業員であり、その健康維持は会社としての重要な課題と捉えているからです。一方、社会的責任の一つとして「情報セキュリティ」にも力を注いでおります。当社グループは個人情報を取り扱う企業として、得意先や市場から信頼していただけるセキュリティ体制の構築とさらなる向上に努めております。その他の活動においても経営信条「三益一如」のもと、全従業員で取り組んでおります。本書がステークホルダーの皆様にご覧いただきご理解いただく一助となれば幸いです。

本年6月より創立51周年という新たな節目の一步を踏み出しました。創立時に制定された経営信条「三益一如」は50年が経過した今でも色あせることなく広く社内に浸透しています。今後も「三益一如」の実践を通して社会に評価される企業を目指してまいります。

本書をお読みいただき、ご意見・ご感想などございましたら、添付のアンケート票にご記入いただき、当社窓口までお送りください。

### 【お問い合わせ】

総務本部 TEL:03-6253-5713

### 【編集方針】

- 発行年月 2016年7月
- 報告対象期間 2015年度(一部期間外の情報を含みます)
- 報告対象範囲(環境実績集計範囲)  
トッパン・フォームズ株式会社  
本社ビル  
中央研究所  
生産事業所：仙台センター  
グループ会社  
トッパン・フォームズ・セントラルプロダクツ株式会社(TFCP)  
トッパン・フォームズ東海株式会社(TFT)  
トッパン・フォームズ・サービス株式会社(TFS)  
トッパン・フォームズ関西株式会社(TFK)  
トッパン・フォームズ西日本株式会社(TFN)  
山陽トッパン・フォームズ株式会社(STF)  
北海道トッパン・フォームズ株式会社(HOTF)  
沖縄ビジネスフォーム株式会社(OBF)  
トッパン・フォームズ(香港)社  
トッパン・フォームズ・カード・テクノロジーズ社[香港]  
トッパン・フォームズ(シンガポール)社

本文中の「生産事業所」は、上記の生産事業所と中央研究所、グループ会社の生産事業所を含みます。また「事業所」は、生産事業所と事務所を含みます。

# トッパン・フォームズ株式会社

〒105-8311 東京都港区東新橋 1-7-3  
<http://www.toppan-f.co.jp/>  
お問い合わせ  
総務本部 TEL.03-6253-5713

## みんなの文字®

この制作物は、みんなの文字を使用しています。みんなの文字は、一般社団法人UCDAが「読みやすさ」を認証した書体です。

© TOPPANFORMS 2016 1



どんぐりん  
A0330

CFPを活用して  
ライフサイクル全体の  
カーボン・オフセットをしました。



CO<sub>2</sub>の「見える化」  
カーボンフットプリント  
1冊あたり  
<http://www.cfp-japan.jp>  
CR-BS05-16007



COM16012-1607N-080